



「うめいろそらいろ
浜松へちまプロジェクト」
へちまグリーンカーテン



「中村家住宅でリズムヨガ」
重要文化財の建物の中で
リズムヨガを楽しむ様子

地域力向上事業

(市民提案による住みよい地域づくり助成事業)



「伊佐見田んぼアート」
ナウマンゾウがピアノを
演奏する様子を表現



「浜名湖クルーズ」
浜名湖の自然について
湖上で学ぶ子どもたち

地域力向上事業とは？

住みよい地域社会を実現するため、

- ・ **地域資源を活かした事業**
- ・ **地域課題を解決するための事業**を実施する団体に対し、

最大で **総事業費の50%(上限 200 万円)** を補助する制度です。

補助対象となる事業

次のいずれかに該当する公益性のある事業

- ①地域コミュニティづくり
- ②安心安全な地域づくり
- ③生活改善および生活環境の向上
- ④文化・スポーツ・生涯学習の振興
- ⑤健康・福祉の向上
- ⑥地域の特性を活かしたまちづくり

こんな事業は対象外です

営利目的の事業
政治・宗教・選挙活動目的の事業
その他公序良俗に反する事業

令和7年度に西地域で採択された事業

事業名	事業内容・目的
伊佐見小学校 150周年記念事業	伊佐見小学校開校150周年を記念し、音楽鑑賞会、水車改修、航空写真撮影、伊佐見小卒業生で絵本作家の鈴木のりたけ氏による講演会を実施。 伊佐見地区について理解を深め、郷土愛の精神を高める。
浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と 浜名湖の生き物体験事業～	遊覧船に乗って伊佐見地区の全体像や浜名湖の生物・湖上環境を観察し、 地元や浜名湖への関心を持ち愛着を深める。
伊佐見田んぼアート	佐浜町で発見されたナウマンゾウを田んぼアートで表現。 稲作文化の継承、地元の宝である「ナウマンゾウの歴史」を周知する。
うみいろそらいろ 浜松へちまプロジェクト	かつて浜松市で盛んに生産されていたへちまと一緒に栽培し、グリーンカーテンや へちまスポンジの素晴らしさを広め、環境保全意識を高める。
中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～	雄踏地区の重要文化財・中村家住宅にてリズムヨガなどのイベントを 定期開催し、地元の歴史的建造物の知名度アップを目指す。
地域の子どもたちと 「庄内へちま×和紙」の通した 交流授業体験と広報	地域のこどもたちを対象に、へちまの繊維を混ぜた和紙を作る体験を実施し、 地域産業の掘り起こしと地域活性化について考える機会を提供する。

皆さんも提案してみませんか？

「西地域のここがすごい！もっと知ってもらいたい！」

「西地域に住んでいる人々を楽しませたい！」

「ここを改善すれば、西地域はもっと住みやすくなる！」

そんな思いを抱えた方々から、多くのご提案をいただいております。

また、自治会、イベント実行委員会、NPO法人、ママ友グループなど、

本助成制度は多種多様な団体にご利用いただいております。

「地域の歴史を広めたい」「地域住民が参加できるスポーツ大会をやりたい」

「高齢者が集まれる場をつくりたい」「自治会主催で地域防災訓練を行いたい」

公益性があれば大丈夫！まずは西行政センターにご連絡ください。

皆さまの事業提案をお待ちしております。

連絡先

西行政センター 地域振興(3階北)

電話番号:053-597-1112

FAX:050-3385-8176

メール:w-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp



←詳しくはこちらをご確認ください。

相談開始から採択まで、
平均2ヶ月程度かかります。
お早めにご相談ください。
皆様のご応募
お待ちしております！



西地域応援団 YEELくん

浜松市地域力向上事業実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、市民協働の手法により住みよい地域社会を実現するため、市が実施又は支援する区内の地域資源を活かした事業や課題を解決する事業（以下「地域力向上事業」という。）について、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要綱において「団体」とは、以下の各号に掲げる要件のいずれにも該当するものとする。

- (1) 3人以上で構成されること。
- (2) 市内に住所を有する又は市内で活動する法人その他グループであること。
- (3) 市税の未納がないこと。
- (4) 納税義務者に対して給与の支払いをする者にあつては、市民税、県民税及び森林環境税の特別徴収義務者として指定されていること又は指定されていないことについて正当な理由があること。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する団体を除く。

- (1) 政治・宗教を目的とする団体
- (2) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。）、暴力団員等（同条第6号に規定する暴力団員又は同号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者をいう。）及び暴力団員等と密接な関係を有する者並びにこれらの者のいずれかが役員等（無限責任社員、取締役、執行役若しくは監査役又はこれらに準じるべき者、支配人及び清算人をいう。）となっている法人その他の団体
- (3) その他公序良俗に反する団体

(事業区分)

第3条 この要綱において、地域力向上事業の実施に係る形態区分は、次のとおりとする。

- (1) 市民提案による住みよい地域づくり助成事業（以下「助成事業」という。）
団体の提案に基づき、市が公益上の必要を認め、団体が主体的に取り組む事業に対し市から補助金を交付することで、効果が期待できる事業
- (2) 区民活動・文化振興事業
地域の活性化や文化振興のため、市民協働の観点を取り入れて実施する事業
- (3) 区課題解決事業

地域の課題を解決するため、市民協働の観点を取り入れて実施する事業

(4) 協働センター等を核とした地域課題解決事業

支所、協働センター、及びふれあいセンターにおいて、地域の課題を解決するため、地域団体等との協働によって実施する事業

(対象事業)

第4条 この要綱において地域力向上事業とは、次の各号のいずれかに該当する公益性のある事業をいう。

- (1) 地域コミュニティづくりに関する事業
- (2) 安全安心な地域づくりに関する事業
- (3) 生活改善及び生活環境の向上に関する事業
- (4) 文化・スポーツ・生涯学習の振興に関する事業
- (5) 健康・福祉の向上に関する事業
- (6) 地域の特性を活かしたまちづくり事業

2 前項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するものは事業の対象としない。

- (1) 政治、宗教、選挙活動又は営利を目的とする事業
- (2) 公序良俗に反するおそれがあると認められる事業
- (3) 施設整備など後年度に維持管理経費が生じる事業
- (4) 特定の個人又は提案団体のみが利益を受ける事業

3 前項の規定によるほか、助成事業については、次のいずれかに該当するものは事業の対象としない。

- (1) 国、他の地方公共団体又は浜松市の他の補助金等の支援を受ける事業
- (2) 国、他の地方公共団体又は浜松市の外郭団体から別に補助金等の公的支援を受ける事業

(事業期間)

第5条 地域力向上事業の事業期間は、単年度とする。

(事業の提案等)

第6条 助成事業の提案をしようとする団体（以下「提案団体」という。）は、市長が定める期限までに次に掲げる書類を提出しなければならない。なお、原則として1つの提案は1つの区振興課又は行政センターのみに可能とする。

- (1) 事業提案書（第1号様式）
- (2) 収支予算書（第2号様式）
- (3) 団体の概要書（第3号様式）

- (4) 市民税・県民税・森林環境税特別徴収義務者指定通知書の写し又は市民税・県民税・森林環境税特別徴収未実施理由書（第4号様式）（補助金申請者が給与所得者を雇用する事業者の場合）
- 2 区は、区民活動・文化振興事業、区課題解決事業及び協働センター等を核とした地域課題解決事業を立案するにあたり、区民等からの提案やアイデアを参考に、市民協働の手法により事業化するように努めるものとする。

（候補事業の検討）

第7条 前条第1項の規定に基づいて提案された助成事業は、市長が別に定める審査会（以下「審査会」という。）において、審議するものとする。

- 2 審査会においては、提案された助成事業を前項の規定により審議するに当たり、必要に応じて提案団体から事業内容の聴取を行うものとする。

- 3 前2項の規定にかかわらず、提案された助成事業が、次の各号に掲げる事業（以下「少額助成等事業」という。）である場合は、第13条に規定する審査会（以下「少額助成等事業審査会」という。）において、審議するものとする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りではない。

(1) 地域団体が主体となり地域の課題解決に資するもので、その補助金の交付申請額が15万円以下の事業

(2) 地区コミュニティ協議会（浜松市区及び区協議会の設置等に関する条例（平成18年浜松市条例第78号）（以下「条例」という。）第29条第1項の規定により認定された団体をいう。）が実施する事業

- 4 前3項の審議は別表1の基準に基づき行うものとする。

（実施予定事業の決定）

第8条 市長は、助成事業の採択に当たっては、条例第4条に規定する区協議会（中央区及び浜名区にあっては、同条例第5条の2に規定する地域分科会）（以下「区協議会等」という。）に意見を求め、その意見を踏まえて実施予定助成事業を決定し、提案団体には選考結果通知書（第5号様式）により通知するものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、少額助成等事業の場合は、第13条に規定する少額助成等事業審査会において実施予定助成事業を決定し、提案団体には選考結果通知書（第5号様式）により通知するものとする。

- 3 区民活動・文化振興事業及び区課題解決事業は、区協議会等に意見を求め、その意見を踏まえて実施するものとする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りではない。

(事業の実施)

第9条 前条の規定により決定された地域力向上事業は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 助成事業は、浜松市補助金交付規則（昭和55年浜松市規則第17号）及び浜松市市民提案による住みよい地域づくり助成事業費補助金交付要綱（令和2年12月14日施行）に基づき行う。

(2) 区民活動・文化振興事業、区課題解決事業及び協働センター等を核とした地域課題解決事業は、市長の定めるところにより行う。

(事後評価)

第10条 市長は、実施した助成事業が終了したときは、審査会で評価を行う。

2 市長は、前項に規定する事後評価について、区協議会等で協議するものとする。

3 前項の評価は別表2の基準に基づき行うものとする。

(中間評価)

第11条 市長は、採択した助成事業について中間評価を実施することができる。なお、評価方法は前条に規定する事後評価に準じるものとする。

2 市長は、前項に規定する事後評価について、区協議会等で協議するものとする。

3 継続事業について、当該事業実施年度の前年度に中間評価を実施した場合、評価結果を採択時に斟酌するものとする。

(公表)

第12条 市長は、実施した地域力向上事業の事業概要及び第10条に規定する事後評価結果を区ホームページ等で公表するものとする。

(少額助成等事業審査会)

第13条 少額助成等事業審査会は、少額助成事業について、審査を行うものとする。

2 少額助成等事業審査会の構成員は、区振興課長又は行政センター長（以下「区振興課長等」という。）、提案事業実施地区の支所長、協働センター所長又はふれあいセンター所長及び区協議会等会長並びに副会長とする。

3 少額助成等事業審査会の会議は、区振興課長等が必要の都度招集し、会議の議長となる。

4 少額助成等事業審査会は、書面により開催することができる。

5 前4項に定めるもののほか、少額助成等事業審査会の運営に関し必要な事項は、区振興課長等が少額助成等事業審査会に諮って定める。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定めるものとする。

令和8年度 地域力向上事業 ～市民提案による住みよい地域づくり助成事業～ ガイドブック

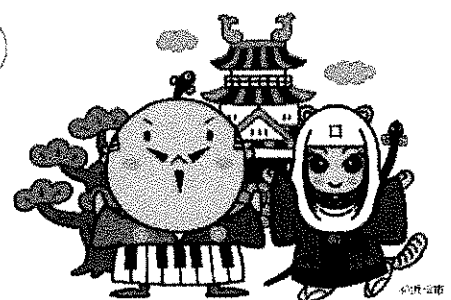
目次

1	「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」とは	1
2	事業を提案してみよう！	2
①	対象となる団体	2
②	対象となる事業	2
③	対象期間と採択回数は	3
④	補助金額	3
⑤	補助対象となる経費	4
⑥	事業を提案してみよう	6
⑦	事業提案のポイント	7
⑧	事業提案から補助金交付までの流れ	8
⑨	提出書類	9
⑩	問い合わせ先	10
3	事例集	11

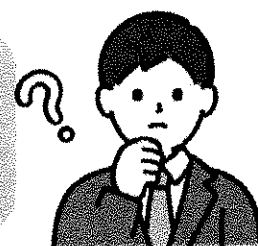
皆の力で地域を元気に、
より良くするのじゃ!!!



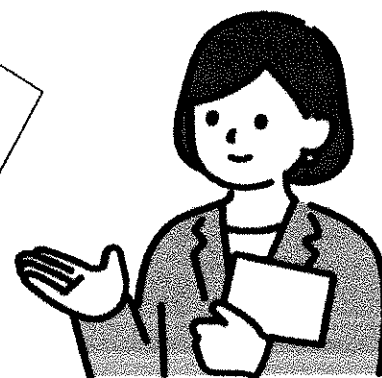
ガイドブックや要綱は、市公式
ホームページでもご覧いただけ
ます。



1 「市民提案による住みよい 地域づくり助成事業」とは



- 市民の皆さんが地域の課題解決や、地域の活性化などのために主体的に実施する事業に対し、市から補助金を交付する制度です。
- 市民の皆さんが自ら地域のことを考えて、地域の課題解決や地域の魅力の掘り起しを行うことで、地域で活動される人材が育ち、地域の人同士のコミュニティができ、地域が元気になることが目的です。



2 事業を提案してみよう！



「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」では、皆さんからの事業提案を募集しています。

「地域をより良くするためにこんなことを考えているのだけど…」

「地域の抱える課題を、住民の手で解決したい！」

などお考えの方は、事業を組み立てて是非ご提案ください！！

① 対象となる団体

対象となる団体は、以下の要件をすべて満たす団体です。

- ・ 3人以上で構成される団体
- ・ 市内に住所を有するまたは市内で活動する法人その他グループ
- ・ 申請の時点で市税の未納がない団体

ただし、次のいずれかに該当する場合は対象外となります。

- ・ 政治・宗教を目的とする団体
- ・ 暴力団、暴力団員等、暴力団員と密接な関係を有する者ならびに、これらの者のいずれかが役員等となっている法人その他の団体
- ・ その他公序良俗に反する団体

② 対象となる事業

次のいずれかに該当し、公益性のある事業が補助対象です。

- ・ 地域コミュニティづくりに関する事業
- ・ 安全安心な地域づくりに関する事業
- ・ 生活改善及び生活環境の向上に関する事業
- ・ 文化・スポーツ・生涯学習の振興に関する事業
- ・ 健康・福祉の向上に関する事業
- ・ 地域の特性を活かしたまちづくり事業

ただし、次のいずれかに該当する場合は対象外となります。

- ・ 政治、宗教、選挙活動又は営利を目的とする事業
- ・ 公序良俗に反するおそれがあると認められる事業
- ・ 施設整備など後年度に維持管理経費が生じる事業
- ・ 国、他の地方公共団体又は浜松市の他の補助金等の支援を受ける事業
- ・ 国、他の地方公共団体又は浜松市の外郭団体から別に補助金等の公的支援を受ける事業

③ 対象期間と採択回数

<対象期間>

地域力向上事業の事業期間（事業開始～完了）は、4月1日～3月31日となっています。

<採択回数>

同じ事業は最大3回（最長三ヶ年度分で、3年連続でなくても構いません）まで助成対象となります。

※重大な感染症のまん延または地震、台風などの災害等の発生により、採択後実施ができない事業について、市長と協議の上、事業を中止した場合は、当該年度の補助金の交付確定金額が0円であったときに限り、採択回数に含めません。

④ 補助金額

事業実施に必要な経費のうち、補助金の交付対象となる経費に対して、初年度は50%以内、二ヶ年目は40%以内、三ヶ年目は25%以内を補助します。（二ヶ年目以降は事業を継続して実施する場合。）

上限額	補助率		
	初年度	二ヶ年度	三ヶ年度
200万円	50%以内	40%以内	25%以内

「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」は、皆さんの地域活動のきっかけづくりや事業を継続して実施するためのスタートアップを支援する制度です。

そのため、市の助成が終わっても事業を継続することができるよう、採択回数は最大3回（最長で三ヶ年度分）、補助率は徐々に下がる仕組みになっています。



⑤ 対象となる経費

経費区分	対象経費の例	備考
報償費	➤ 講師謝礼（外部講師、出演者、MC、審判、審査員等） ➤ 原稿執筆者の執筆等への謝礼	➤ 団体構成員への支払いは対象外です。 ➤ 事業規模等に応じ、適正かつ妥当な額を対象とします。
賃金	➤ 臨時的に雇用した看護師や保健師、専門スタッフ（映像・音響・照明・舞台監督等）、アルバイト等への賃金 チェック！こんな経費は対象外！ ✓事業規模に見合わない雇用への賃金 例）必要人員以上のアルバイト雇用 ✓通常業務を行う団体構成員への賃金	➤ 特定の技量を要する行為や特別に役務の提供が必要と認められる場合に支払う賃金を対象とします。 ➤ 事業規模等に応じ、適正かつ妥当な人数・時間の範囲内で実施する経費を対象とします。 ➤ 団体構成員・アルバイトの賃金は、申請時点の静岡県最低賃金を原則とします。 ➤ 資格や特殊技能を要する業務は、専門性に適した金額とします。
旅費	➤ 出演者等との打合せに要する交通費 ➤ 出演者等が事業（イベント、講演会等）へ出席するために要する交通費、宿泊費 チェック！こんな経費は対象外！ ✓事業実施者の内部調整に関するもの 例）遠方の団体構成員との打合せ	➤ 宿泊費の上限は、1 名 1 泊 10,200 円（食事代は対象外）とします。 ※宿泊しなければ事業実施が困難であると認められる場合のみ ➤ 交通費は出演者等との連絡調整、出演者等の旅費に係る経費の実費負担分を対象とします。 ➤ 事業実施のための視察旅費は対象外です。
需用費	➤ 消耗品費（申請事業のみに必要な事務機器、教材、食材 等） ➤ 燃料費（暖房・炊事用プロパンガス、石油、自動車燃料 等） ➤ 食糧費（イベント参加者の熱中症対策に配付する水 等）	➤ 消耗品は単価 5 万円（税込）未満のものを対象とします。 ➤ 食糧費は事業実施に必要と認められるものを対象とします。ただし、事業主催者側（ボランティア含む）の飲食物は対象外です。

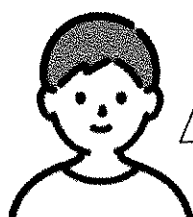
需用費	➤ 光熱水費（電気、水道、ガス使用料 等） ➤ 印刷製本費（チラシ・パンフレットの印刷、写真の現像 等） ➤ 修繕費 ➤ 医薬材料費（医療用包帯、ガーゼの購入 等）	チェック！こんな経費は対象外！ ✓事業実施に不可欠ではない経費 例）事業主催者、出演者等の弁当代
役務費	➤ 電話料 ➤ 郵便料 ➤ 保険料 ➤ 広告料 ➤ 手数料（クリーニング代含む）	
委託料	➤ イベント会場等における警備業務委託 ➤ 講演会等における駐車場整理業務委託	➤ 事業全てを委託する場合は対象外です。 ➤ 見積は原則 3 者以上から徴収してください。
使用料及び賃借料	➤ 会場、資機材、バス、タクシー等の使用・借上げに要する経費 ➤ 駐車場使用料 ➤ 著作権料 ➤ 下水道使用料	
原材料費	➤ 砂、砂利、木材、鉄板、針金、釘等の直営工事の加工用材料	➤ 特定の個人・団体のみが利益を受ける資産形成につながるものを除きます。

※すべて事業実施に直接係る経費を対象とします。

※領収書を徴することができないものは補助対象外とします。

※報償費及び賃金については、補助対象経費の総額の 50%を越えないものとします。

ただし、市長が必要と認める場合はこの限りではありません。



上の表には、経費区分ごとに対象経費の例が書いてあるね。
事業の実施に必要な経費が、どの経費区分に該当するのか確認してみよう。

いろいろな経費が対象になるけど、一部には対象外の経費もあるね。
判断に困ったら申請前に区役所等へ相談してみよう。

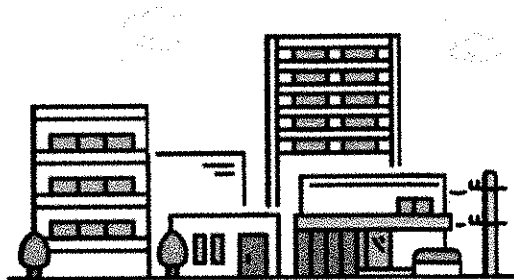


⑥ 事業を提案してみよう

1 地域を見つめ直そう

皆さんが普段生活をしていて、「こんなことが不便だな」、「もっとここがこうなったらいいのに」と思ったことはありませんか？

まずは、地域を見つめ直してみましょう。地域の抱える課題や、それまで気付かなかった魅力の発見があるかもしれません。



2 仲間を集めよう

地域のために活動したいという、同じ思いを持つ仲間を集めましょう。3人以上のグループであれば、「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」に応募できます。

市外にお住まいの方でも、活動が市内で行われるのであれば応募可能です。

3 事業の内容を考えよう

仲間を集めたら、次のことを話し合しましょう。

- ・ 地域の課題は何か、その解決のために何が出来るか
- ・ 地域の魅力は何か、その進展のために何ができるか

4 予算を考えよう

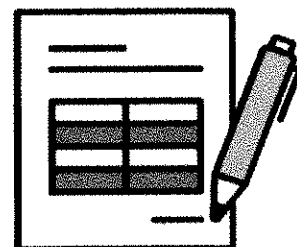
何をするかが決まったら、そのための予算について話し合しましょう。

補助金の対象になる経費とならない経費があるので、それを踏まえて、費用の面での計画を立てます。この時、出来る限り少ない経費で、大きな効果が得られる事業の進め方を考えましょう。

5 提案書の作成しよう

内容が理解しやすい提案書を作成しましょう。

提案様式は、問い合わせ先（P10）の各課で配付しているほか、浜松市公式ホームページからデータをダウンロードすることもできます。困ったときはコミュニティ担当職員（P7）や問い合わせ先（P10）にご相談ください。



⑦ 事業提案のポイント

事業提案の大切なポイントは3つ。

ポイントを押えて、より良い提案にしましょう。

POINT 1

公益性

特定の団体だけでなく地域住民の多くにとって必要で、出来るだけたくさんの人に利益のある事業を考えましょう。

また、たくさんの人が自由に参加できるように計画することも大切です。

POINT 2

事業効果

地域課題の原因や背景は何でしょうか？また、地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を事業にどう生かす予定ですか？

これらを踏まえ、事業が地域の課題解決につながり、得られる効果が大きいものとなるよう、事業を計画しましょう。

POINT 3

継続性

「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」がきっかけで始めた活動が、引き続きが継続できるよう、費用や運営の工夫が必要です。

コミ担にご相談ください！！

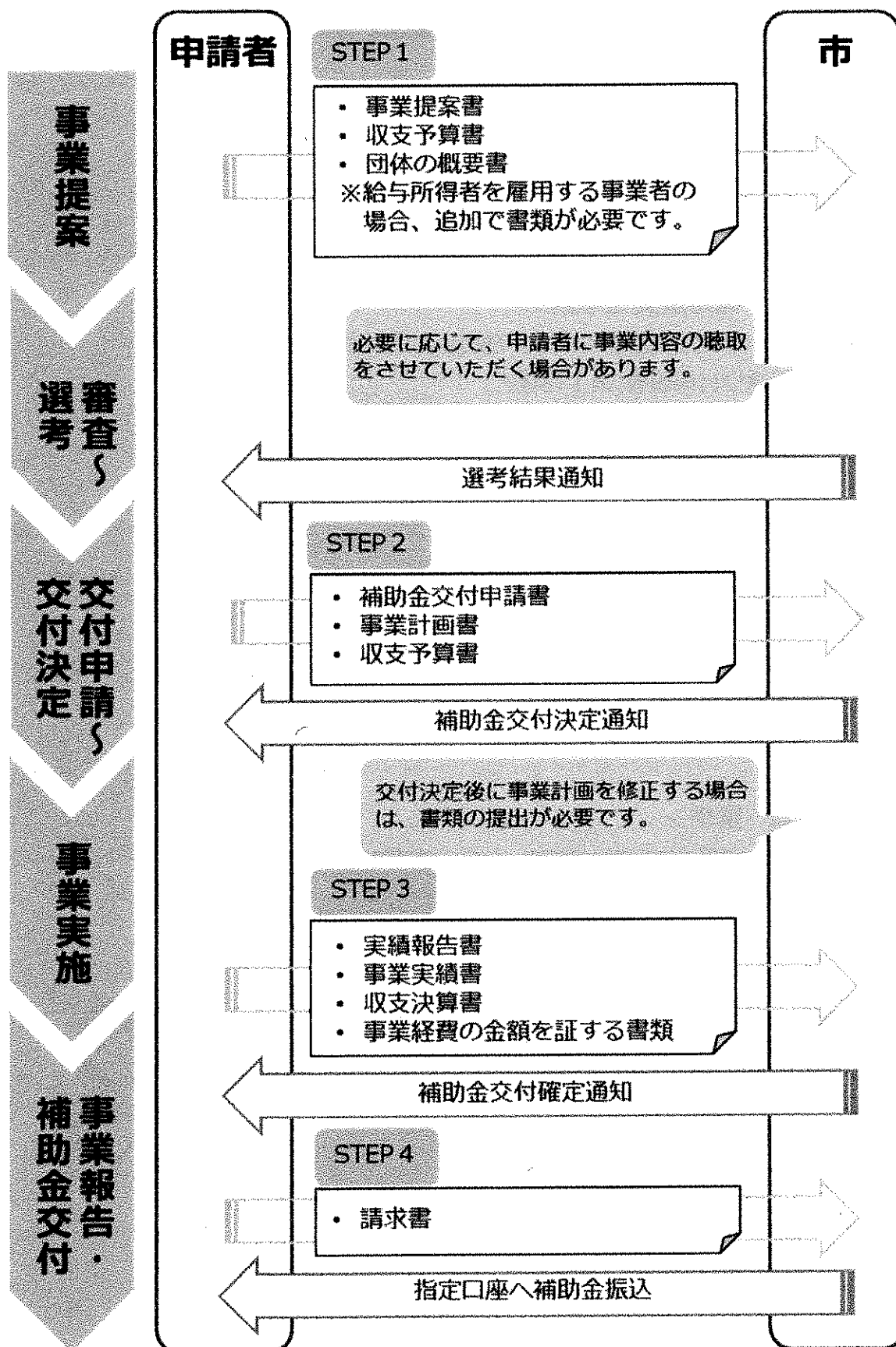
コミュニティ担当職員（通称「コミ担」）は、地域づくりを進めるためのサポート役として、各区役所、行政センター、協働センターなどに配置されています。

コミ担は、地域の皆さんの地域課題や地域活動についての相談をお伺いし、アドバイスを行います。また、地域と市役所を繋いだり、地域づくりに関する情報提供を行ったりするなど、地域の皆さんの自主的な活動をサポートします。

市へのご相談や、地域のために活動をされたいという時には、まずはお近くのコミ担に相談してみましょう。



⑧ 事業提案から補助金交付までの流れ



⑨ 提出書類

<STEP 1 事業提案>

事業を考えたら、まずは提案書類を作成しましょう。

- (1) 事業提案書(第 1 号様式)
- (2) 収支予算書(第 2 号様式)
- (3) 団体の概要書(第 3 号様式)
- (4) 市民税・県民税特別徴収義務者指定通知書の写し
(給与所得者を雇用する事業者の場合のみ)

<STEP 2 補助金交付申請>

審査の結果、事業が採択されたら、補助金の交付申請を行ってください。

- (1) 補助金交付申請書(第 1 号様式)
- (2) 事業・変更事業計画書(第 2 号様式)
- (3) 収支・変更収支予算書(第 3 号様式)

<STEP 3 実績報告>

採択された事業が完了したら、実績報告を行ってください。

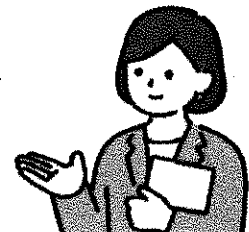
- (1) 実績報告書(第 9 号様式)
- (2) 事業実績書(第 10 号様式)
- (3) 収支決算書(第 11 号様式)
- (4) 事業経費の金額を証する書類

<STEP 4 請求>

実績報告後、補助金交付額が確定したら、請求を行ってください。

- (1) 請求書(第 13 号様式)

提出書類の様式は、問い合わせ先(P10)窓口で配付しているほか、浜松市公式ホームページからもダウンロードできます。



⑩ 問い合わせ先

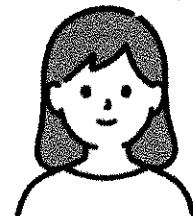
お近くの各区区振興課又は行政センター（春野・佐久間・水窪・龍山地域は各支所）
にお問い合わせください。

中央区	区振興課	TEL : 457-2210	天竜区	区振興課	TEL : 922-0013
	東行政センター	TEL : 424-0115		春野支所	TEL : 983-0001
	西行政センター	TEL : 597-1112		佐久間支所	TEL : 966-0001
	南行政センター	TEL : 425-1120		水窪支所	TEL : 982-0001
浜名区	区振興課	TEL : 585-1143		龍山支所	TEL : 966-2111
	北行政センター	TEL : 523-1168			

<事業提案をしようとお考えの方へ>

- 1次募集の交付決定を行い、補助金交付決定額が当初の見込みを下回った場合は、4月1日以降に2次募集を行います。
- 募集期間や書類の提出期限等は区役所等によって異なることがあります。

事業提案を検討されている場合は、必ずスケジュール
などを区役所等を確認してください。
事業提案のためのご相談についても、余裕を持って
行ってください。



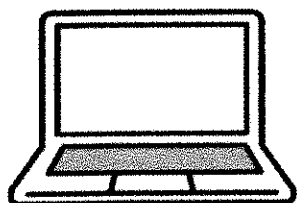
3 事例集

掲載事業一覧

頁	地域	年度	事業名	団体名	事業概要
P13	中	2023	浜松ブルースフェスティバル 2023	浜松ブルース振興会	多くの地域住民が参加するブルースフェスティバルの開催
P13	東	2022	郷土の偉人松島十湖を訪ねて (より広くより深く)	笠井だるま市保存会	地域の句碑を巡るウォーキングイベント等の開催
P14	西	2023	浜名湖から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験会事業	伊佐見地区コミュニティ協議会	船上学習、浜名湖の生物研修、絵画展示等
P14	南	2023	地域交流・健康増進イベント	医療法人社団 綾和会 浜松南病院	健康増進や防災意識向上を図るイベント、医療講演会の開催
P15	北	2023	【北区の絆プロジェクト】 地域を繋ぐ町興しイベント	一般社団法人 MIYAKODA	地域住民や多様な団体が一堂に会し交流するイベントの開催
P15	浜北	2023	LOCAL ACTION HAMAMATSU 「森の朝市」	一般社団法人 LOCAL ACTION HAMAMATSU	「食×農×環境」をテーマにしたマルシェイベント「森の朝市」の開催など
P16	天竜	2021	佐久間放課後子供教室	佐久間っ子クラブ	放課後児童会のない佐久間地区に子供たちの居場所（放課後子供教室）を開設
P16	中	2025	歌の好きな子集まれ〜♪ 浜松キッズコーラス講座	浜松キッズコーラス実行委員会	音楽表現や合唱の基礎を学ぶ子供向け講座の開催

頁	地域	年度	事業名	団体名	事業概要
P17	東	2024	2024 サマーソフトテニス フェスティバルin安間川公園	与進ソフト テニスクラブ	東地域内公立中学校のソフト テニス部員による合同練習 会、大会の開催
P17	西	2024	うみいろそらいろ 浜松へちまプロジェクト	浜松へちま・ ミライ	へちまの歴史や育て方の講 座やへちまの加工体験イベ ントの実施 など
P18	南	2024	耕作放棄地活用事業	NPO 法人 水辺の里まち づくりの会	遊休農地を利用したそば栽 培や地域イベントへの出展 の実施 など
P18	北	2012	北区・わくわく元気 プロジェクト	浜松大学 社会貢献・ ボランティア センター	都田朝市、キッズオープンキ ャンパス、地域防犯の開催 など
P19	浜 北	2020	三遠南信名物自慢 「はまきた駅前なゆた朝市」	浜北駅前 なゆた朝市	三遠南信地域の特産物の販 売や抽選会を開催
P19	天 竜	2021	春野町ホタルの里活性化事業	はるの・気田 ホタル 実行委員会	藤の瀬ホタル公園とその周 辺水路の清掃やホタルの幼 虫の観察、放流の実施 など

- ・実施された「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」は、市が事後評価を実施します。その後、事業概要および事後評価を市のホームページで公表します。
- ・これまでに実施された、「市民提案による住みよい地域づくり助成事業」についても、同様に公表していますので参考にご覧ください。

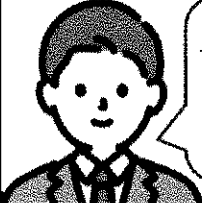


〇〇区 地域力向上事業



市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例①

事業名	浜松ブルースフェスティバル2023		実施年度	令和5年度
実施団体	浜松ブルース振興会	地域	中央区中地域	
実施場所	浜松ギャラリーモールソラモ	総事業費 (補助金額)	1,442,412円 (554,000円)	



<事業の目的は？>
多くの地域住民が自由に参加するブルースフェスティバルを開催し、地域の活性化と音楽振興を目指したものです。





<どんな事業？>
・プロゲスト、アマチュア6組による演奏会を開催。
・飲食、アクセサリなどのショップ出店。
・SNSなどにより国内外に情報発信。

<事業成果は？>
音楽ファンだけでなく広く住民を巻き込み、来場者目標1,000人を達成！地域の活性化や賑わい創出に貢献しました。

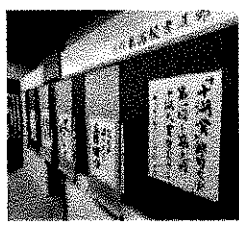


市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例②

事業名	郷土の偉人松島十湖を訪ねて ＜より広くより深く＞		実施年度	令和4年度
実施団体	笠井だるま市保存会	地域	中央区東地域	
実施場所	だるま会館ほか	総事業費 (補助金額)	464,056円 (223,000円)	



<事業の目的は？>
・「俳人」「地方政治家」等としての功績がある郷土の偉人、松島十湖の業績に触れ、地域活性化の機会を作ることです。
・浜松東高校と連携してイベントを盛り上げ、地域と若者の連携を深めるものです。



<どんな事業？>
・笠井地区句碑群4か所を巡るウォーキングイベント、高校生書道部パフォーマンス等の実施。
・笠井だるま市での作品展示・松島十湖について解説するリーフレットの作成、配布。

<事業成果は？>
地域にゆかりのある俳人をテーマとした2つのイベントを通し、地域住民、高校生、イベント参加者が交流し、地域の活性化を図ることができました。



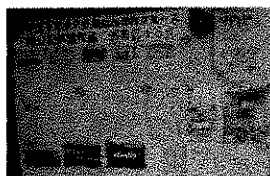
市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例③

事業名	浜名湖から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験会事業		実施年度	令和5年度
実施団体	伊佐見地区コミュニティ協議会	地域	中央区西地域	
実施場所	浜名湖体験学習施設ウオットほか	総事業費 (補助金額)	399,865円 (193,000円)	



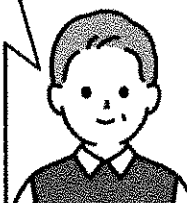
<事業の目的は？>
地元の小学生や自治会関係者が伊佐見地区の水生物について学び、地域の自然環境を見つめなおすことで環境保全意識や郷土愛の向上を図るものです。





<どんな事業？>

- ・ 浜名湖の生物や環境を湖上から観察する船上学習（浜名湖遊船探検クルーズ）を実施。
- ・ 地域を通る路線バスの利用促進のため、帰路に路線バスの乗車体験を実施。
- ・ 実施後、小学生が作成した絵日記を伊佐見協働センターに展示。



<事業成果は？>
浜名湖が抱える課題を理解しつつ、地域資源の魅力を小学生が体感する機会を創出できました。

市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例④

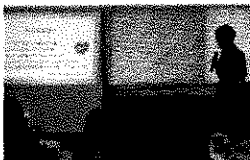
事業名	地域交流・健康増進イベント		実施年度	令和5年度
実施団体	医療法人社団綾和会 浜松南病院	地域	中央区南地域	
実施場所	浜松南病院	総事業費 (補助金額)	497,299円 (234,000円)	



<事業の目的は？>
地域の病院を活用したイベントの開催により、
地域住民の健康増進、防災意識の向上につなげる
ものです。



<どんな事業？>
・栄養相談、医療介護相談、体組成測定などを実施
・緊急車両の展示、キッチンカーの出店
・AEDの使い方や糖尿病に関する講演会の実施
・世界糖尿病デーに合わせて病院をブルーライトアップ



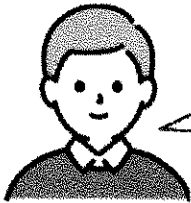
<事業成果は？>
目標500人に対して800人の参加があり、健康や防災
意識の向上のみならず、地域コミュニティの活性化
に貢献しました。





市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑤

事業名	【北区の絆プロジェクト】 地域を繋ぐ町興しイベント		実施年度	令和5年度
実施団体	一般社団法人MIYAKODA	地域	浜名区北地域	
実施場所	須倍神社	総事業費 (補助金額)	410,750円 (200,000円)	

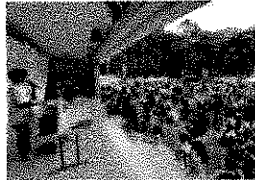


<事業の目的は？>
地域住民や多様な団体が参加する交流イベントを開催し、今後の継続的な町おこしの契機とするものです。

<どんな事業？>
地元の特産品やローカルフードを扱うグルメブース、体験型ワークショップブースの出店・舞台での地域活動団体等の演出・発表など住民の絆を深め、地域の魅力を発信するイベントの開催。

<事業成果は？>

- ・地域団体が自ら出展する場を提供し、地域の農産物や食品等の魅力を地域内外に発信できました。
- ・地域との関わりが少なかった若者世代の参画により地域行事の担い手確保や日常的な交流の契機となりました。




市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑥

事業名	LOCAL ACTION HAMAMATSU「森の朝市」		実施年度	令和5年度
実施団体	一般社団法人LOCAL ACTION HAMAMATSU	地域	浜名区浜北地域	
実施場所	県立森林公園ほか	総事業費 (補助金額)	871,237円 (348,000円)	

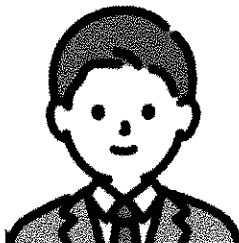
<事業の目的は？>
食や環境をテーマにしたマルシェイベントの開催を通じ、世代間や異業種間の交流促進や関係強化を図ることで、地域から環境に配慮した持続可能な社会の実現を目指すものです。

<どんな事業？>

- ・「食×農×環境」をテーマにしたマルシェイベント「森の朝市」を定期的で開催（計22回）。
- ・ごみ・環境問題に関する講演会を開催。

<事業成果は？>

- ・社会的に健康や環境への関心が高まっている中で、地域資源を活用した事業実施により、住民の健康増進や農家の育成支援などの面からも有効な取り組みとすることができました。
- ・市からの2年間の助成後、自立して事業を実施できる体制を構築できています。

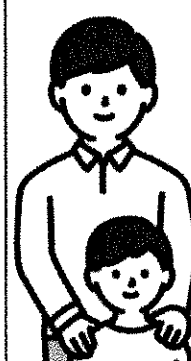



市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑦

事業名	佐久間放課後子供教室		実施年度	令和3年度
実施団体	佐久間っ子クラブ	区	天竜区	
実施場所	佐久間小学校図書室	総事業費 (補助金額)	974,000円 (487,000円)	

<事業の目的は？>
放課後児童会がない佐久間地区において、放課後等に子供たちが安心して過ごせる居場所を設け、児童の交流促進や健全育成、子育て環境の充実を図るものです。





<どんな事業？>

- ・ 佐久間小学校の図書室に「放課後子供教室」を開設。
- ・ 佐久間地区住民が協力し、開設から運営までを実施。

<事業成果は？>

- ・ 放課後や長期休暇期間中の子供たちの居場所となり、学年の異なる児童同士も交流が深まる機会となりました。
- ・ 地域の安全・安心な子育て環境づくりにつながりました。
- ・ 多くの地域住民が協力して運営する中で、住民の団結力が高まりました。
- ・ 活動日には集団での下校ができ、児童の安全確保に寄与しました。



市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑧

事業名	歌のすきな子あつまれ～♪ 浜松キッズコーラス講座		実施年度	令和7年度
実施団体	浜松キッズコーラス 実行委員会	地域	中央区中地域	
実施場所	クリエート浜松	総事業費 (補助金額)	288,022円 (72,000円)	

<事業の目的は？>
音楽が好きな子供たちへ音楽（合唱）講座を開催することで、音楽に関する能力を高めると同時に、学年や学校の枠を超えた交流を通じて、地域や世代の繋がりや地域文化を育みます。




<どんな事業？>

- ・ 歌い方のコツから音楽表現、学年に応じた合唱の基礎を身につけます。
- ・ 学年や学校の異なる参加者との交流を深めます。

<事業成果は？>
子供たちの音楽力を高めるとともに、他の学年、学校の児童との交流が生まれ、音楽交流につながりました。

市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑨

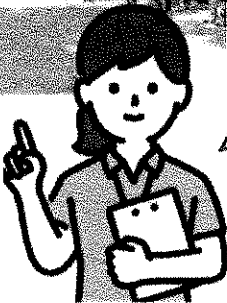
事業名	2024サマーソフトテニス フェスティバルin安間川公園		実施年度	令和6年度
実施団体	与進ソフトテニスクラブ	地域	中央区東地域	
実施場所	安間川公園	総事業費 (補助金額)	95,397円 (47,000円)	



<事業の目的は？>
中学校の休日部活動の地域展開を促進し、クラブ間の交流の活性化を図ります。

<どんな事業？>
東地域内公立中学校6校のソフトテニス部員による合同練習会、大会を実施。

<事業成果は？>
既に休日部活動の地域クラブ化を進めている与進、笠井のクラブが中心になって運営することで、他の4校の地域クラブ化のモデルとなりました。



市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑩

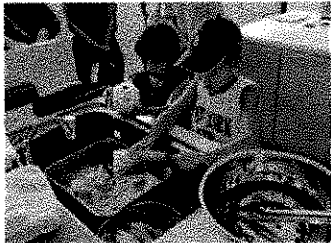
事業名	うみいろそらいろ 浜松へちまプロジェクト		実施年度	令和6年度
実施団体	浜松へちま・ミライ	地域	中央区西地域	
実施場所	西地域全域	総事業費 (補助金額)	712,042円 (356,000円)	

<事業の目的は？>
マイクロプラスチックやごみの削減、グリーンカーテンによる電気エネルギーの削減に繋がれるへちまのポテンシャルを多くの人に伝えることを目的としています。



<どんな事業？>
・へちまの歴史や育て方の講義と実践、へちまの加工体験イベントの実施。
・メールマガジンの発行や栽培動画の製作、公開。

<事業成果は？>
浜松とへちまの歴史を周知するとともにマイクロプラスチックなど環境問題を考え直すきっかけとなりました。



市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑪

事業名	耕作放棄地活用事業 ～持続可能なコミュニティづくり～		実施年度	令和6年度
実施団体	NPO法人 水辺の里まちづくりの会	地域	中央区南地域	
実施場所	河輪町、東町、三新町	総事業費 (補助金額)	377,885円 (150,000円)	

<事業の目的は?>

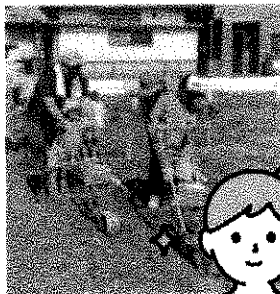
- ・遊休農地を利用してそば栽培を実施することで農地保全・環境整備を図ります。
- ・農業体験やそば打ち体験等を通じて、地域の子どもたちや外国籍住民が日本の農業文化・食文化に触れる機会を提供し、地域コミュニティの再生を目指します。

<どんな事業?>

- ・遊休農地を利用したそば栽培
- ・農業体験・そば打ち体験会の開催
- ・地域イベント（秋まつり等）への出展

<事業成果は?>

- ・遊休農地活用により、景観向上と通学路の安全・安心を確保できました。
- ・そば打ち体験会では世代間交流につながりました。
- ・地域イベントへの出展を通じて、地域コミュニティの再生に寄与しました。




市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑫

事業名	北区・わくわく元気プロジェクト		実施年度	平成24年度
実施団体	浜松大学 社会貢献・ボランティアセンター	地域	浜名区北地域	
実施場所	みおつくし文化センター、浜松大学 等	総事業費 (補助金額)	2,006,876円 (1,000,000円)	

<事業の目的は?>

子どもから高齢者、障がい者を対象に、大学や学生の力を活用して、北区(当時)を元気で活気ある町にすることを目的としたものです。

<どんな事業?>

都田朝市、キッズオープンキャンパス、北区☆健康フェア、スポーツフェスタ、北区クリーンアップウォーキング、地域防犯などを開催。

<事業成果は?>

学生と参加者の交流の中で大学と地域のつながりがうまれました。






市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑬

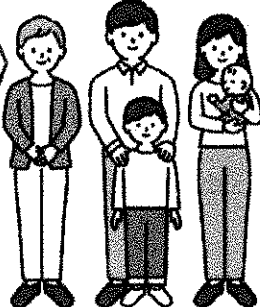
事業名	三遠南信名物自慢 「はまきた駅前なゆた朝市」		実施年度	令和2年度
実施団体	はまきた駅前なゆた朝市	地域	浜名区浜北地域	
実施場所	なゆた・浜北	総事業費 (補助金額)	610,680円 (225,000円)	



<事業の目的は？>
三遠南信名物自慢「はまきた駅前なゆた朝市」を定期的で開催することで、浜北駅前周辺の活性化を図るものです。

<どんな事業？>
三遠南信地域の特産物の販売や抽選会を開催。

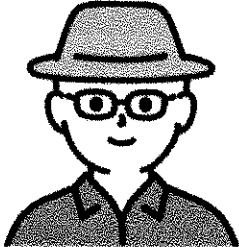
<事業成果は？>
たくさんの人が参加し、地域の繋がりが、駅前の賑わいが生まれました。




浜名区役所北側通路

市民提案による住みよい地域づくり助成事業 活用事例⑭

事業名	春野町 ホタルの里 活性化事業		実施年度	令和3年度
実施団体	はるの・気田 ホタル実行委員会	地域	天竜区	
実施場所	藤の瀬ホタル公園とその周辺	総事業費 (補助金額)	202,054円 (80,000円)	



<どんな事業？>
・藤の瀬ホタル公園とその周辺水路の清掃、草刈り。
・ホタルの幼虫やカワニナの観察、放流。

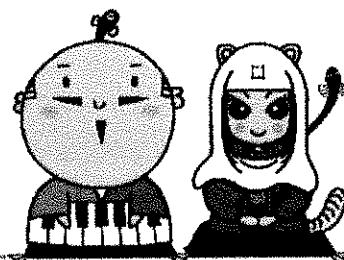
<事業成果は？>
・気田小学校との協力で地域一体となって活動することができました。
・小学生と共に活動することで環境教育と後継者育成の一助になりました。

<事業の目的は？>
地域の大人と子どもが協働し、源氏ホタルの生育区域の清掃や幼虫の育成、放流活動を通して生息環境の保全を図ります。




令和 8 年度地域力向上事業 ～市民提案による住みよい地域づくり助成事業～ ガイドブック

みんなのご応募
お待ちしておりますのじゃ



発行：浜松市 市民部 市民協働・地域政策課
〒430-8652 浜松市中央区元城町 103-2
TEL 053-457-2094
E-mail shiminkyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp

区 協 議 会

区 分	☐ 諮問事項 ☒ 協議事項 ☐ 報告事項				
件 名	令和7年度地域力向上事業（助成事業）の事後評価について				
事業の概要 （背景、経緯、 現状、課題等）	地域力向上事業は、市民協働の手法により住みよい地域社会を実現するため、市が実施又は支援する区の特性を活かした事業や課題を解決する事業です。 ○市民提案による住みよい地域づくり助成事業 （以下「助成事業」という） 団体の提案に基づき、市が公益上の必要を認め、団体が主体的に取り組む事業に対し市から補助金を交付することで、効果が期待できる事業 <浜松市地域力向上事業実施要綱（抜粋）> 第10条 市長は、実施した助成事業が終了したときは、審査会で評価を行う。 2 前項の評価は別表2の基準に基づき行うものとする。 第12条 市長は、実施した地域力向上事業の事業概要及び第10条に規定する事後評価結果を区協議会等で協議した上で、区ホームページ等で公表するものとする。				
対象の区協議会	浜松市中央区協議会西地域分科会				
内 容	○対象事業6件 令和7年度に西地域で実施された「助成事業」について、審査会での事後評価を報告し、浜松市中央区協議会西地域分科会に意見を求めるものです。 審査会結果及び実施事業の詳細は別紙のとおりです。				
備 考 （答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など）	①令和8年度第1回中央区（西行政センター）地域力向上事業（助成事業）審査会で事後評価（4月30日） ②西地域分科会で事後評価につき協議（5月18日） ③ホームページにて事後評価を公表				
担当課	西行政センター	担当者	大平 哲也	電話	597-1112

令和7年度 中央区地域力向上事業(助成事業) 事後評価シート【西地域】

No.	事業名	団体名	評価					総事業費	市執行額 (補助金額)	採択回数
			達成度	活用度	貢献度	支援の 妥当性	費用対 効果			
1	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通じた交流授業体験と広報	庄内半島ドリームプロジェクト 「庄内へちま×和紙」実行委員会	B	A	A	B	B	1,097,610円	434,000円	2回目
2	中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～	子育て支援の会ひらがなくらぶ	B	A	B	B	A	1,258,178円	619,000円	1回目
3	うみいろそらいろ 浜松へちまプロジェクト	浜松へちまミライ	B	A	B	A	A	347,187円	138,000円	2回目
4	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の 生き物体験事業～	伊佐見地区コミュニティ協議会	B	A	A	A	B	384,158円	96,000円	3回目
5	伊佐見田んぼアート	伊佐見地区コミュニティ協議会	A	A	A	A	B	703,763円	281,000円	2回目
6	伊佐見小学校150周年記念事業	浜松市立伊佐見小学校PTA	B	B	B	B	B	2,541,842円	232,000円	1回目
合計								6,332,738円	1,800,000円	

地域力向上事業の評価基準について

評価項目	評価		
事業目的の達成度	A 高い	B 普通	C 低い
地域資源の活用度	A 高い	B 普通	C 低い
地域への貢献度	A 高い	B 普通	C 低い
財政支援の妥当性	A 高い	B 普通	C 低い
費用対効果	A 高い	B 普通	C 低い

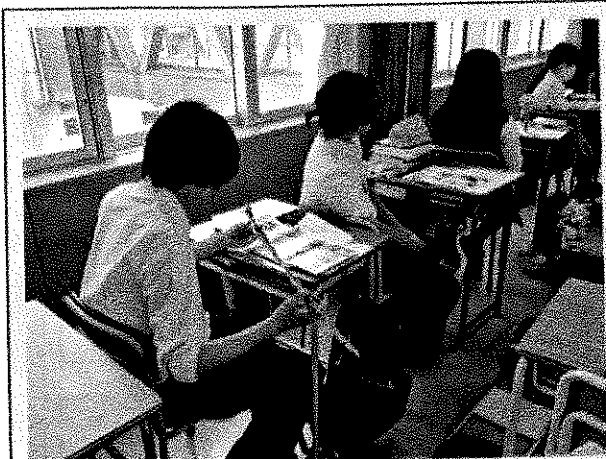
助成事業 No. 1

< 令和7年度 > (中央区 西行政センター)

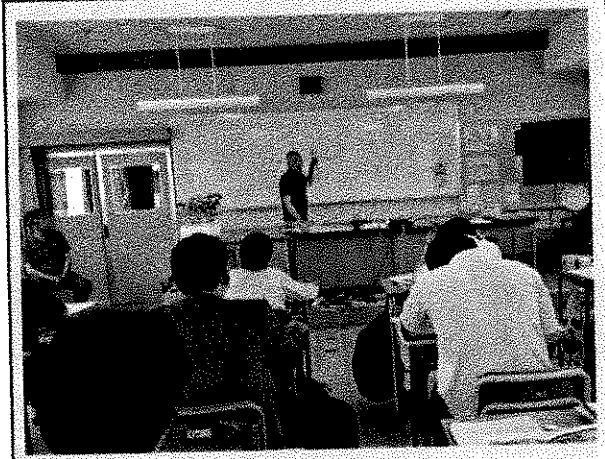
(1)事業名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報	(2)採択回数	2回目 (補助率40%以内)																											
(3)実施団体名	庄内半島ドリームプロジェクト「庄内へちま×和紙」実行委員会																													
(4)事業の目的	1 地域のこどもたちと庄内地区の魅力を一緒に考える。 2 地域のこどもたちと「庄内へちま和紙」の新しい用途を考える。 3 地域住民に庄内地区の価値を知ってもらう。 4 地域ブランディングを通して庄内地区を活性化させる。																													
(5)事業の成果 (内容)	<table border="1"> <tr> <td>イベント名</td><td>地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報</td></tr> <tr> <td>実施時期</td><td>令和7年4月1日(火) ~ 令和8年3月31日(火)</td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td>庄内地区</td></tr> <tr> <td>内容</td><td> 1 へちま和紙の原料栽培(4月から6月) ・オイスカ専門学校の農場で、和紙原料となるへちま、椿、トロロアオイの栽培に、地域住民やオイスカ高校の生徒が挑戦した。 2 へちま和紙製品化に関する授業(1月14日) ・庄内学園の5・6年生を対象に、どんな製品にへちま和紙を活用できるか考えてアイデアを共有する授業を実施。 3 へちま和紙作り体験(1月から2月) ・(1月21日)オイスカ高校3年生40人が参加。 ・(1月17日)庄内協働センターで実施。地域のこども10人が参加。 ・(1月24・25日)クリエート浜松で実施。地域住民120人が参加。 ・(2月18日)北庄内幼稚園で実施。園児と保護者30人が参加。 4 広報活動(通年) ・公共施設等でチラシやポスターを配架・掲示して事業を宣伝。 </td></tr> </table>			イベント名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報	実施時期	令和7年4月1日(火) ~ 令和8年3月31日(火)	実施場所	庄内地区	内容	1 へちま和紙の原料栽培(4月から6月) ・オイスカ専門学校の農場で、和紙原料となるへちま、椿、トロロアオイの栽培に、地域住民やオイスカ高校の生徒が挑戦した。 2 へちま和紙製品化に関する授業(1月14日) ・庄内学園の5・6年生を対象に、どんな製品にへちま和紙を活用できるか考えてアイデアを共有する授業を実施。 3 へちま和紙作り体験(1月から2月) ・(1月21日)オイスカ高校3年生40人が参加。 ・(1月17日)庄内協働センターで実施。地域のこども10人が参加。 ・(1月24・25日)クリエート浜松で実施。地域住民120人が参加。 ・(2月18日)北庄内幼稚園で実施。園児と保護者30人が参加。 4 広報活動(通年) ・公共施設等でチラシやポスターを配架・掲示して事業を宣伝。																			
イベント名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報																													
実施時期	令和7年4月1日(火) ~ 令和8年3月31日(火)																													
実施場所	庄内地区																													
内容	1 へちま和紙の原料栽培(4月から6月) ・オイスカ専門学校の農場で、和紙原料となるへちま、椿、トロロアオイの栽培に、地域住民やオイスカ高校の生徒が挑戦した。 2 へちま和紙製品化に関する授業(1月14日) ・庄内学園の5・6年生を対象に、どんな製品にへちま和紙を活用できるか考えてアイデアを共有する授業を実施。 3 へちま和紙作り体験(1月から2月) ・(1月21日)オイスカ高校3年生40人が参加。 ・(1月17日)庄内協働センターで実施。地域のこども10人が参加。 ・(1月24・25日)クリエート浜松で実施。地域住民120人が参加。 ・(2月18日)北庄内幼稚園で実施。園児と保護者30人が参加。 4 広報活動(通年) ・公共施設等でチラシやポスターを配架・掲示して事業を宣伝。																													
(6)総事業費	1,097,610円	(7)補助金額	434,000円																											
(8)評 価	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">項 目</th><th colspan="3">評 価</th></tr> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th></tr> <tr> <td>1 事業目的の達成度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>2 地域資源の活用度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>3 地域への貢献度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>4 財政支援の妥当性</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>5 費用対効果</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> </table>	項 目	評 価			A	B	C	1 事業目的の達成度	高い	普通	低い	2 地域資源の活用度	高い	普通	低い	3 地域への貢献度	高い	普通	低い	4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い	5 費用対効果	高い	普通	低い		
項 目	評 価																													
	A	B	C																											
1 事業目的の達成度	高い	普通	低い																											
2 地域資源の活用度	高い	普通	低い																											
3 地域への貢献度	高い	普通	低い																											
4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い																											
5 費用対効果	高い	普通	低い																											
(9)意見等	1 事業目的の達成度 ・地域のこどもたちが庄内地区の魅力やへちま和紙の活用方法などを考えることを通し、地域資源による地域活性化を考える機会となった。 2 地域資源の活用度 ・庄内地区にゆかりのあるへちまを活用して事業を実施できた。 ・庄内学園やオイスカ高校と協働で事業を実施し、地域住民のボランティアの協力を得て事業を進められた。 3 地域への貢献度 ・事業により、耕作放棄地の活用方法などをこどもたちに教えることができ、庄内地区の活性化について考えてもらう機会を提供できた。 ・庄内学園で郷土の歴史や地域ブランド化の手法を題材に授業を行い、こどもたちが地域の歴史に触れることができた。 4 財政支援の妥当性 ・耕作放棄地の増加、人口減少といった庄内地区が現在抱える課題を知るきっかけを、地域のこどもたちに提供できた。 5 費用対効果 ・こどもたちや地域住民が、へちまを通じて庄内地区について考えるきっかけを作ることができた。																													

事業実施中の様子

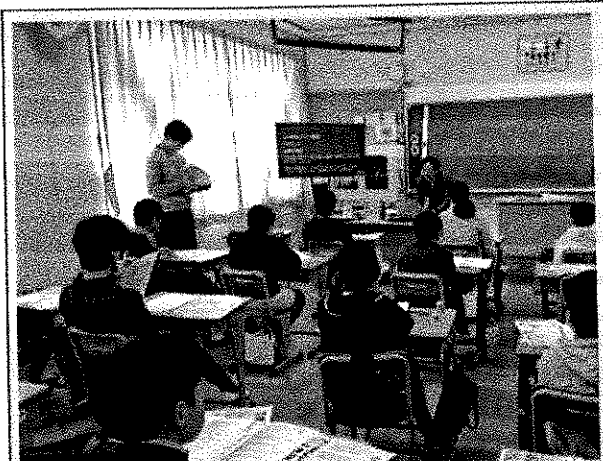
事業名：地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報（2回目）



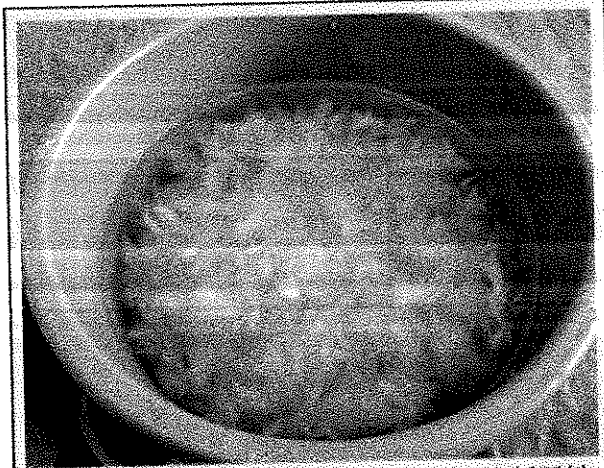
①和紙の原料を触って確かめる



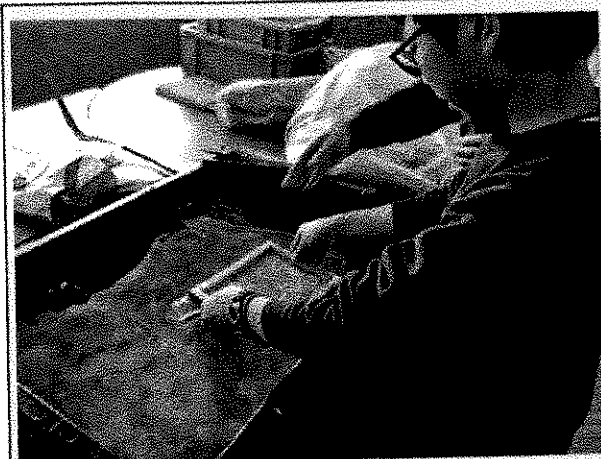
②和紙原料の栽培方法について学ぶ



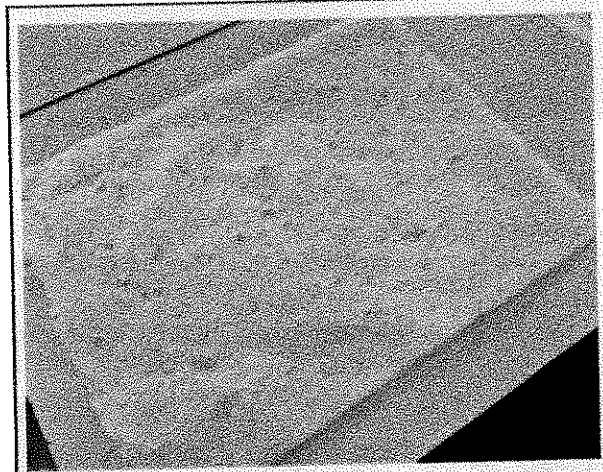
③庄内学園児童と和紙の活用方法を考える



④へちま・楮・トロロアオイを混ぜた和紙原料



⑤庄内協働センターで和紙作り体験を実施



⑥完成したへちま和紙

第10号様式(第10条関係)

事業実績書

事業名	地域の子どもたちと「庄内へちま×和紙」を通した交流授業体験と広報
事業主体名 (共催、後援、協力等)	庄内半島ドリームプロジェクト 「庄内へちま×和紙」実行委員会
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和8年3月31日(火)
実施場所	庄内学園・オイスカ高校・庄内協働センター・クリエート浜松
参加人数	団体スタッフ 32人、参加者 350人
事業の内容	・へちま和紙の原料づくり体験 オイスカ専門学校の農場を借りて、へちま、楮、トロロアオイの栽培に挑戦した。ただ、いずれの作物も上手く育たず、本年度は失敗という結果に終わった。 場 所：オイスカ専門学校農場(2500㎡) 参加者：オイスカ高校生徒など30人 日 時：6月19日(木)に種蒔き、苗の植え付け ・へちま和紙製品化に関する授業 庄内学園の5・6年生の児童を対象に、かつて農業が盛んだった庄内地区の歴史や、へちま和紙をどんな製品に活用できるか考えてもらう授業を実施した。児童にはテキスト(A4カラー4ページ)とワークシート(A4モノクロ4ページ)を配布し、庄内地区を活性化させるアイデアを考えて書いてもらった。また、へちま和紙に特に興味を持った児童7人で「プロジェクト委員会」を結成し、へちま和紙の製品化についてより深く探求する会議を2回実施した。 場 所：庄内学園 参加者：庄内学園5・6年生 計108人 日 時：令和8年1月14日(水) ・へちま和紙作り体験 下記の4か所で紙すき体験会を実施した。楮とへちまを煮て細かく碎き、トロロアオイを溶かした液体に混ぜて原料を作り、平安時代から続いている『溜め漉き』という手法で紙漉きを行い、水分を乾かせば完成となる。この一連の流れを、オイスカ高校の生徒や地域住民が体験できる機会を提供した。

	(1) オイスカ高校 日 時：1月21日（水） 参加者：オイスカ高校3年生・教員 計40人 備 考：作ったへちま和紙は卒業証書として活用。プロの書家に3年生全員分の卒業証書を書いてもらった。正式な卒業証書ではないが、記念品として生徒に贈った。 (2) 庄内協働センター 日 時：1月17日（土） 参加者：地域の子どもたち 10人 (3) クリエート浜松 日 時：1月24日（土）25日（日） 参加者：2日間で120人 (4) 北庄内幼稚園 日 時：2月18日（木） 参加者：年長・年中児童、保護者 計30人 ・事業の広報 当初の予定通り、チラシを2,000枚、ポスターを100枚印刷し、協働センター、神社、幼稚園、小学校で配架・掲示したり、地域の会合で配布したりして、事業の宣伝や参加者募集を進めた。
事業目的の達成度	・地域の子どもたちと庄内地区の魅力を一緒に考える 学校での授業や和紙づくり体験を通じて、庄内地区の歴史やへちまの繊維を混ぜた和紙の強み、耕作放棄地を生かしたへちま原料栽培の可能性など、庄内地区のポテンシャルについて考えるきっかけを子どもたちに提供することができた。 ・地域の子どもたちと「庄内へちま和紙」の新しい用途を考える 学校での授業やプロジェクト委員会での活動を通し、子どもたちがへちま和紙の使い方を主体的に考える時間を提供することができた。へちま和紙の用途として、ペンケース、小さなバッグなどのアイデアが出た。 ・地域住民に庄内地区の価値を知ってもらう 子どもたちは授業を通して、庄内地区の魅力について考えると同時に、自分たちが考えた地元の魅力を他人に伝える力も養ってもらった。まずは子どもたちが地元の魅力を理解し、それを大人に伝えていく事で、庄内地区の魅力が地域住民に広く伝播する土台を作ることができた。

地域資源の活用度	・ヒト 庄内学園やオイスカ高校の教職員協力のもと、地域の子どもたちを対象とした授業・和紙作り体験・和紙原料栽培を実施することができた。また、事業実施に際して地元の有志がボランティアとして参加してくれて、授業の準備、和紙作り体験のサポートなどをしてくれた。 ・モノ 庄内地区とゆかりのあるへちまを生かして、和紙作り体験・庄内地区の魅力発信を実施することができた。また、へちま和紙原料栽培体験は、オイスカ専門学校の農場を活用して進められた。
地域への貢献度	庄内地区の将来を担う子どもたちを中心に、へちま和紙の有用性や庄内地区のポテンシャルを知ってもらう機会を提供できた。耕作放棄地の増加や人口減少という庄内地区の課題に正面から向き合う機会となり、地域の魅力を発見し、それを製品化する意義や地域ブランド化していく方法を子どもたちに教えることができた。
財政支援の妥当性	「庄内へちま×和紙」の活用方法を自分たちでアイデアを出し合う活動を通し、こどもたちが地域のブランド化や耕作放棄地の活用する方法などを知ってもらう機会となり、庄内地区の活性化について考えてもらうきっかけを提供することができた。
費用対効果	へちまの繊維を混ぜた和紙を自分たちで作ってもらうという貴重な体験を、地域の子どもたちや地域住民に提供することができた。庄内地区の未来を担う子どもたちに、和紙作り体験を通して地域活性化の手法や耕作放棄地の活用方法などを通して教えることができた。
今後の方向性	令和8年度は事業開始から3年目となるので、3年間の事業の総括、「庄内へちま×和紙」の実用化・ブランド化に焦点を当てて事業を実施していきたい。また、本年度初挑戦したものの上手くいかなかった和紙原料の栽培に再チャレンジする予定だ。
備考	

第11号様式（第10条関係）

収支決算書

1 収入の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
			増	△減	
補助金	434,000	434,000			地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1,097,610	1,087,000	10,610		

2 支出の部

単位：円

区分	補助 対象 ※	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
				増	△減	
報償費	○	350,000	385,000		△35,000	・授業謝礼 60,000 ・書家謝礼 15,000 ・和紙職人 275,000
消耗品	○	415,000	430,000		△15,000	・へちま 30,000 ・和紙材料 385,000
委託料	○	83,600	76,000	7,600		チラシ・ポスター デザイン 83,600
委託料	○	103,400	94,000	9,400		チラシ・ポスター 印刷費 103,400
使用料 貸借料	○	3,640	9,000		△5,360	庄内協働センター3,640
手数料	○	7,480	0	7,480		振込手数料
原材料費	○	134,490	93,000	41,490		・トロロアオイ種 3,440 ・栳の苗 99,000 ・栳の苗 32,050
計		1,097,610	1,087,000	10,610		
うち補助対象経費		1,097,610	1,087,000	10,610		

※補助対象事業に○を記載してください。

助成事業 No. 2

< 令和7年度 > (中央区 西行政センター)

(1)事業名	中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～	(2)採択回数	1回目 (補助率50%以内)																											
(3)実施団体名	子育て支援の会ひらがなくらぶ																													
(4)事業の目的	1 重要文化財・中村家住宅でのイベント開催により、コミュニティや地域の絆の強化を図る。																													
(5)事業の成果 (内容)	<table border="1"> <tr> <td>イベント名</td><td>中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～</td></tr> <tr> <td>実施時期</td><td>令和7年4月1日(火) ～ 令和8年3月15日(日)</td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td>重要文化財 中村家住宅</td></tr> <tr> <td>内容</td><td> 1 リズムヨガ・ペアヨガ(5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く) ・中村家住宅に地域住民や参加希望者を集め、リズムヨガやペアヨガを体験するイベントを実施。 2 週替わりアクティビティ(5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く) ・リズムヨガ終了後、週替わりのアクティビティを実施。 (ブツブツ交換会、大河ドラマの歴史勉強会、ハンドメイド作り体験、日本のお魚講演会、居場所に関する講演会、参加型ライブ等) 3 広報活動(通年) ・事業の周知、参加者募集のため、チラシを作成して配架・回覧した。 ・新聞、ラジオ、テレビ、ネット記事、SNSなど各種メディアを通して事業を周知した。 </td></tr> </table>			イベント名	中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～	実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和8年3月15日(日)	実施場所	重要文化財 中村家住宅	内容	1 リズムヨガ・ペアヨガ(5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く) ・中村家住宅に地域住民や参加希望者を集め、リズムヨガやペアヨガを体験するイベントを実施。 2 週替わりアクティビティ(5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く) ・リズムヨガ終了後、週替わりのアクティビティを実施。 (ブツブツ交換会、大河ドラマの歴史勉強会、ハンドメイド作り体験、日本のお魚講演会、居場所に関する講演会、参加型ライブ等) 3 広報活動(通年) ・事業の周知、参加者募集のため、チラシを作成して配架・回覧した。 ・新聞、ラジオ、テレビ、ネット記事、SNSなど各種メディアを通して事業を周知した。																			
イベント名	中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～																													
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和8年3月15日(日)																													
実施場所	重要文化財 中村家住宅																													
内容	1 リズムヨガ・ペアヨガ(5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く) ・中村家住宅に地域住民や参加希望者を集め、リズムヨガやペアヨガを体験するイベントを実施。 2 週替わりアクティビティ(5月から3月毎週金曜、猛暑・厳寒期を除く) ・リズムヨガ終了後、週替わりのアクティビティを実施。 (ブツブツ交換会、大河ドラマの歴史勉強会、ハンドメイド作り体験、日本のお魚講演会、居場所に関する講演会、参加型ライブ等) 3 広報活動(通年) ・事業の周知、参加者募集のため、チラシを作成して配架・回覧した。 ・新聞、ラジオ、テレビ、ネット記事、SNSなど各種メディアを通して事業を周知した。																													
(6)総事業費	1,258,178円	(7)補助金額	619,000円																											
(8)評 価	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">項 目</th><th colspan="3">評 価</th></tr> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th></tr> <tr> <td>1 事業目的の達成度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>2 地域資源の活用度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>3 地域への貢献度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>4 財政支援の妥当性</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>5 費用対効果</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> </table>	項 目	評 価			A	B	C	1 事業目的の達成度	高い	普通	低い	2 地域資源の活用度	高い	普通	低い	3 地域への貢献度	高い	普通	低い	4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い	5 費用対効果	高い	普通	低い		
項 目	評 価																													
	A	B	C																											
1 事業目的の達成度	高い	普通	低い																											
2 地域資源の活用度	高い	普通	低い																											
3 地域への貢献度	高い	普通	低い																											
4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い																											
5 費用対効果	高い	普通	低い																											
(9)意見等	1 事業目的の達成度 ・1回あたりの参加者数は約18.5人と当初の目標(1回あたり15人)を上回り、中村家住宅を活用しながら参加者同士の交流を促進することができた。 2 地域資源の活用度 ・地域の重要文化財で体を動かすという貴重な体験を提供することができた。 ・中村家住宅に絡めて「歴史の勉強会」を実施するなど、その場所だからこそ意義があるコンテンツを取入れていた。 3 地域への貢献度 ・地域住民に、定期的に集まって住民同士で会話を交わせる場所を提供することができた。 ・事業の様子をSNSで配信したことで、中村家住宅の魅力を広く発信することができた。 4 財政支援の妥当性 ・行政管理の中村家住宅を有効活用し、地域住民が交流する場を提供することができた。 5 費用対効果 ・事業を通し、地域住民が交流する場を提供することができた。																													

事業実施中の様子

事業名：中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～



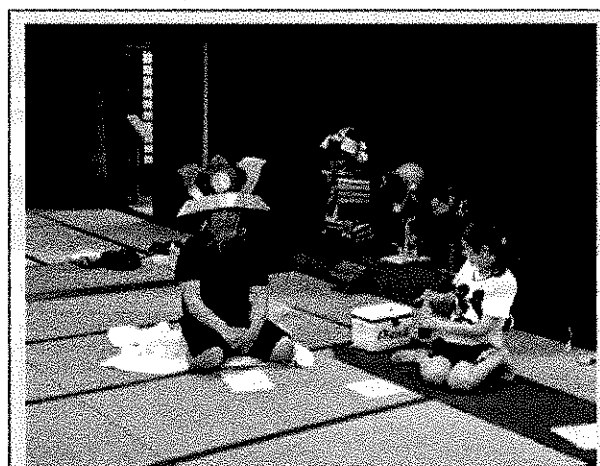
①イベント開催日の中村家住宅 長屋門



②建物の中でヨガ体験



③風船バレーでコミュニケーション



④大河ドラマの歴史勉強会



⑤週替わりで様々なアクティビティを実施



⑥中村家住宅でミニライブを開催

第10号様式（第10条関係）

事業実績書

事業名	中村家住宅でリズムヨガ ～世代を越えて仲良く健康に～
事業主体名 (共催、後援、協力等)	子育て支援の会 ひらがなくらぶ
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和8年3月15日(日)
実施場所	重要文化財 中村家住宅
参加人数	団体スタッフ 延べ92名、参加者 延べ426名
事業の内容	・リズムヨガ、ペアヨガ 5月から3月までの毎週金曜（猛暑期・厳寒期を除く）午後に、雄踏町にある重要文化財中村家住宅でリズムヨガやペアヨガを体験するイベントを開催し、地域住民やロコミを聞いて訪れた方など、全23回のイベントに延べ426人が参加した。参加者は1時間程度、音楽に合わせて体を動かしたり、参加者同士でペアを組んでストレッチを行ったりした。また、座った状態で名前を呼び合いながら風船の入った袋をパスし合う風船バレーなどヨガ以外の運動も取り入れ、参加者は体を動かしながら人と人との交流を楽しんだ。 ・週替わりアクティビティ ヨガ終了後、週替わりのアクティビティを実施し、参加者同士の交流促進、生きがいを図った。 (1) ブツブツ交換会 日時：5月30日、7月4日、10月17日、11月21日（全4回） 内容：参加者同士でぶつぶつと会話を楽しみながら、持ち物を交換した。例を挙げると、新品の洋服、使わない洗剤を参加者同士で交換した様子が見受けられた。 (2) 歴史の寺子屋（全10回） 講師：ごりんぼう先生（大河ドラマ研究家） 内容：40年間毎週欠かさずNHK大河ドラマを視聴している「大河ドラマ研究家」を講師に迎え、中村家住宅で誕生した結城秀康に関する歴史や、大河ドラマに関する豆知識など全10回にわたる勉強会を実施した。

(3) 日本文化とハンドメイド

日時：6月13日

講師：松永媛香先生（手作り雑貨専門店 POTSUN）

内容：市内でハンドメイド雑貨の販売を行う講師を迎え、あづま風呂敷を作成する体験会を実施した。あづま風呂敷とは、取っ手の付いた風呂敷のことで、中村家という歴史的建造物にふさわしいハンドメイド作品を選んだ。25人が参加した。

(4) 浜松のお魚講演会

日時：6月20日

講師：加茂仙一郎先生（海老仙社長）

内容：浜名湖の海産物に関する豆知識や、魚介類を摂取することで健康にどのような効果があるかをテーマに、雄踏地区で浜名湖の海産物を取り扱う会社の社長が講演を行った。40人が参加した。

(5) シルバー世代の居場所に関する講演会

日時：10月18日

講師：平田ひろのぶ先生（講演家・作家）

内容：学生相談員を行っている講師を迎え、高齢者が自分の居場所を作るための講演会を実施した。43人が参加した。

(6) 参加型ミニライブ

日時：11月8日

歌手：nagiさん（シンガーソングライター）

内容：音響機材を中村家住宅に運び、ミニライブを実施した。また、音楽に合わせてホワイトボードに花の形のマグネットを貼って花束の絵を作るアクティビティを取り入れるなど、聴衆がただ音楽を聴くだけではない「参加型」のミニライブという形をとった。

・事業の宣伝

参加者を集めるため、チラシを作成して雄踏地区内で回覧を行ったり、公共施設で配架したりした。また、新聞やラジオなどメディアを通じて事業を宣伝することができた。各種メディアでの宣伝実績は以下のとおりである。

・新聞：静岡新聞3回（6/12、10/25、10/30）

中日新聞1回（5/20）

・ラジオ：SBSラジオ2回、K-MIX2回

・テレビ：ケーブルウインディ1回

・その他インターネット、SNSで多数掲載

事業目的の 達成度	・ イベント開催によるコミュニティ、地域の絆の強化 重要文化財中村家住宅で毎週金曜日にリズムヨガのイベントを実施したことで、地域住民が定期的に集まって顔を合わせる場所を提供することができた。参加者はシニア世代が中心だったが、時には子育て世代や現役世代の方も参加してくれて、世代間交流の場としても生かすことができた。参加者からの事後アンケートは計 45 通集まり、「この事業を機に地域住民と交流が持てた」「仲良くなれた」「情報交換をすることができた」などの声をいただいている。
地域資源の 活用度	・ 重要文化財中村家住宅 中村家住宅は雄踏地区が誇る歴史的重要文化財である。1年間の事業で計 23 回利用した。歴史的建造物とヨガという異色の組み合わせで、参加者は体を動かしながら地元の歴史を体で感じ取ることができた。参加者からのアンケートには、「中村家住宅で歴史の話を聞いたことで、より興味深く感じ歴史の面白さを感じることができた」という意見もあり、中村家住宅を会場にしたからこそ意義のある事業だったと感じている。
地域への 貢献度	・ 定期的に集まれる場所の提供 毎週金曜日に定例的に事業を行う事で、地域住民に「毎週中村家住宅に行ってみなどと会う」という習慣をもってもらえることができた。参加者の中には「一人暮らしで丸一日誰とも喋らない日がある」という方もいて、事業を通して人と交流できる機会を提供し地域住民の生きがいに寄与することができた。 ・ 重要文化財中村家住宅の魅力発信 毎週、参加者の承諾を得たうえでリズムヨガや週替わりアクティビティの様子をライブ配信していた。その中で、視聴者から「すごい場所」「行ってみたい」などのコメントが寄せられており、中にはライブ配信をきっかけに県外から中村家住宅の見学に訪れた方もいた。このように、事業の様子を広く伝えながら、雄踏地区の誇りである中村家住宅を広範囲に PR することができた。
財政支援の 妥当性	行政が管理している中村家住宅を「ヨガイベントの開催」という形で1年を通じて有効利用することができた。「歴史的重要文化財」と「ヨガ」という異色のコラボレーションにより、地域住民が交流する場の提供と地域の歴史的重要文化財の PR をすることができた。

費用対効果	事業実施前、各回での目標参加人数は15人としていたが、全23回のイベントに延べ426人が参加した。1回あたりの参加者数は約18.5人と、当初の目標を上回った。参加者が予想以上に集まり、その分参加者同士の交流促進や中村家住宅の魅力発信ができた。
今後の方向性	令和8年以降は、補助申請をせず自力で事業を行っていく。場所も中村家住宅だけに囚われず、協働センターなど様々な場所で開催したい。
備考	

第11号様式(第10条関係)

収支決算書

1 収入の部

単位:円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
			増	△減	
補助金	619,000	619,000			地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1,258,178	1,239,000	19,178		

2 支出の部

単位:円

区分	補助対象 ※	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
				増	△減	
報償費	○	410,000	410,000			別紙参照
賃金	○	175,128	176,000		△872	別紙参照
旅費	○	45,450	46,000		△550	別紙参照
消耗品	○	116,232	115,000	1,232		別紙参照
食糧費	○	9,178	0	9,178		別紙参照
印刷 製本費	○	510	0	510		別紙参照
郵便料	○	2,330	0	2,330		別紙参照
使用料 賃借料	○	28,350	22,000	6,350		別紙参照
委託料	○	471,000	470,000	1,000		別紙参照
計		1,258,178	1,239,000	19,178		
うち補助対象経費		1,258,178	1,239,000	19,178		

※補助対象事業に○を記載してください。

支出品目	No.	金額	内訳
報償費	81	50,000	ハンドメイド講師
	82	50,000	お魚講演会講師
	83	100,000	居場所に関する講演会講師
	84	110,000	ミニライブ歌手
	85	100,000	歴史講座講師
	計	410,000	
賃金	86	23,782	賃金
	87	23,782	賃金
	88	23,782	賃金
	89	23,782	賃金
	90	20,000	駐車場整理 賃金
	91	20,000	駐車場整理 賃金
	94	20,000	駐車場整理 賃金
	95	20,000	駐車場整理 賃金
	計	175,128	
旅費	81	1,040	ハンドメイド講師
	83	8,750	居場所に関する講演会講師
	84	17,260	ミニライブ歌手
	85	18,400	歴史講座講師
	計	45,450	
消耗品	2	1,092	コピー用紙
	3	440	名札
	4	2,178	バスケット
	5	550	文房具
	7	648	コピー用紙
	8	298	コピー用紙
	9	8,470	ヨガマット
	10	17,026	虫よけ剤
	11	990	風船
	12	9,510	マスク等衛生用品
	13	1,122	コピー用紙
	15	340	マスク等衛生用品
	17	8,631	布
	19	5,192	文房具
	21	1,806	ゴミ袋
	24	5,596	立て看板
	27	1,298	クリアホルダー
	30	1,650	ゴミ袋、クリアホルダー等
	31	10,317	布
	32	180	新聞
	33	2,550	布
	35	550	風船
	39	1,830	アルコールガーゼ
	43	1,096	虫よけ剤
	51	578	コピー用紙
	53	220	文房具
	56	110	ファイル
	63	20,608	テープ
	66	220	ピンフック
	68	448	コピー用紙
	70	6,668	コピー用紙
	71	2,376	クリアケース
	79	1,644	ホッカイロ
	計	116,232	

食糧費	37	3,035	熱中症予防飲料
	78	6,143	熱中症予防飲料
	計	9,178	
印刷製本費	1	50	チラシコピー代
	18	110	チラシコピー代
	22	50	チラシコピー代
	25	40	チラシコピー代
	26	50	チラシコピー代
	28	50	チラシコピー代
	40	160	チラシコピー代
	計	510	
郵便費	23	180	郵便代
	48	2,150	郵便代
	計	2,330	
使用料 賃借料	6	200	駐車料金
	41	400	駐車料金
	44	600	駐車料金
	49	700	駐車料金
	54	100	駐車料金
	55	550	駐車料金
	61	400	駐車料金
	62	500	駐車料金
	65	200	駐車料金
	67	700	駐車料金
	72	200	駐車料金
	74	600	駐車料金
	75	700	駐車料金
	76	700	駐車料金
	77	600	駐車料金
	92	18,400	中村家入館料
	93	2,800	中村家入館料
	計	28,350	
委託料		471,000	チラシデザイン
	計	471,000	
	計	1,258,178	

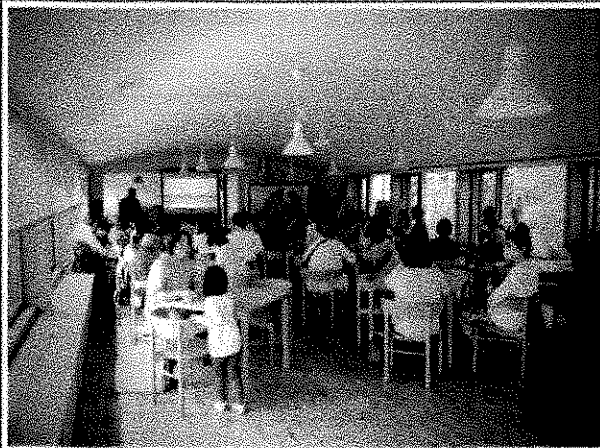
助成事業 No. 3

< 令和7年度 > (中央区 西行政センター)

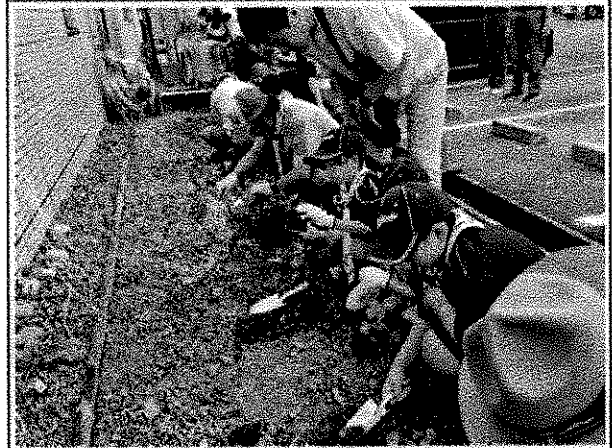
(1)事業名	うみいろそらいろ 浜松へちまプロジェクト	(2)採択回数	2回目 (補助率40%以内)									
(3)実施団体名	浜松へちまミライ											
(4)事業の目的	1 へちまのポテンシャルの高さを認知拡大させる。 2 へちまブランドとしての中央区から浜松全体を盛り上げる。 3 へちまを通じて西地域の環境改善の意識を高める。											
(5)事業の成果 (内容)	<table border="1"> <tr> <td>イベント名</td><td>へちま栽培、加工体験等</td></tr> <tr> <td>実施時期</td><td>4月から10月</td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td>浜松市中央区</td></tr> <tr> <td>内容</td><td> 1 へちまの種苗の配布とグリーンカーテン協力者集め(4月から6月) ・参加者や来場者にへちまの種や苗を配布し、グリーンカーテンづくりに協力してくれるメンバー「つくり隊」を募った。50団体、252人が参加。 2 へちまスポンジ利用者を広める(通年) ・へちまスポンジ利用に協力してくれるメンバー「つかい隊」を募った。 ・43団体、456人が参加。 ・プロジェクト参加者にへちま感謝状を贈呈。 3 イベントの開催(通年) ・キックオフ会:プロジェクトの説明、苗作り。30人が参加。 ・満月へちま会:自宅で栽培できない人向けの栽培体験会。 ・グリーンカーテンづくり:瓜内町の中部浄化センターで実施。70人参加。 ・へちま収穫祭:栽培体験談のシェア、スポンジ作り体験。30人参加。 4 イベントでの出展(通年) ・各種イベントに出展し、種苗の配布・参加者募集を実施。 5 広報活動(通年) ・メルマガやnoteを定期的に更新。 ・新聞、テレビ、ラジオなど各種メディアで掲載。 </td></tr> </table>				イベント名	へちま栽培、加工体験等	実施時期	4月から10月	実施場所	浜松市中央区	内容	1 へちまの種苗の配布とグリーンカーテン協力者集め(4月から6月) ・参加者や来場者にへちまの種や苗を配布し、グリーンカーテンづくりに協力してくれるメンバー「つくり隊」を募った。50団体、252人が参加。 2 へちまスポンジ利用者を広める(通年) ・へちまスポンジ利用に協力してくれるメンバー「つかい隊」を募った。 ・43団体、456人が参加。 ・プロジェクト参加者にへちま感謝状を贈呈。 3 イベントの開催(通年) ・キックオフ会:プロジェクトの説明、苗作り。30人が参加。 ・満月へちま会:自宅で栽培できない人向けの栽培体験会。 ・グリーンカーテンづくり:瓜内町の中部浄化センターで実施。70人参加。 ・へちま収穫祭:栽培体験談のシェア、スポンジ作り体験。30人参加。 4 イベントでの出展(通年) ・各種イベントに出展し、種苗の配布・参加者募集を実施。 5 広報活動(通年) ・メルマガやnoteを定期的に更新。 ・新聞、テレビ、ラジオなど各種メディアで掲載。
イベント名	へちま栽培、加工体験等											
実施時期	4月から10月											
実施場所	浜松市中央区											
内容	1 へちまの種苗の配布とグリーンカーテン協力者集め(4月から6月) ・参加者や来場者にへちまの種や苗を配布し、グリーンカーテンづくりに協力してくれるメンバー「つくり隊」を募った。50団体、252人が参加。 2 へちまスポンジ利用者を広める(通年) ・へちまスポンジ利用に協力してくれるメンバー「つかい隊」を募った。 ・43団体、456人が参加。 ・プロジェクト参加者にへちま感謝状を贈呈。 3 イベントの開催(通年) ・キックオフ会:プロジェクトの説明、苗作り。30人が参加。 ・満月へちま会:自宅で栽培できない人向けの栽培体験会。 ・グリーンカーテンづくり:瓜内町の中部浄化センターで実施。70人参加。 ・へちま収穫祭:栽培体験談のシェア、スポンジ作り体験。30人参加。 4 イベントでの出展(通年) ・各種イベントに出展し、種苗の配布・参加者募集を実施。 5 広報活動(通年) ・メルマガやnoteを定期的に更新。 ・新聞、テレビ、ラジオなど各種メディアで掲載。											
(6)総事業費	347,187円	(7)補助金額	138,000円									
(8)評 価	項 目	評 価										
		A	B	C								
	1 事業目的の達成度	高い	普通	低い								
	2 地域資源の活用度	高い	普通	低い								
	3 地域への貢献度	高い	普通	低い								
	4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い								
	5 費用対効果	高い	普通	低い								
(9)意見等												
1 事業目的の達成度 ・イベントの参加者が参加目標(50団体、個人400人)を上回った。 ・西地域でのへちま栽培イベントの開催でへちまに触れる機会を設けることで、環境改善の意識を高めるきっかけを提供することができた。 2 地域資源の活用度 ・休耕地や庭の空きスペースなどをへちま栽培の場所として活用することができた。 ・地元のへちま産業を築き上げた庄内地区出身の織田利三郎の歴史を講義に活用することができた。 3 地域への貢献度 ・各種メディアに掲載され、へちまの認知向上に併せて西地域の魅力を地域外に周知する機会をつくることができた。 ・スポンジづくり体験やへちま栽培体験などを地域住民と協力して実施し、へちまの魅力を知るきっかけを提供できた。 4 財政支援の妥当性 ・目標数を上回る参加者に対し、へちまの魅力を広めることができた。 ・浜松市地方創生SDGs取組表彰を受賞し、SDGsの取り組みへの貢献を認められた。 5 費用対効果 ・チラシ、ポスター、のぼり旗での宣伝のほか、各種メディアでの掲載などを通し、本事業の周知を行うことができた。												

事業実施中の様子

事業名：うみいろそらいろ 浜松へちまプロジェクト（2回目）



①OMソーラー社屋にてキックオフ会



②中部浄化センターでグリーンカーテン作り



③へちま収穫を体験することどもたち



④中部浄化センターのグリーンカーテン



⑤へちまを煮込んでスポンジにする



⑥完成したへちまスポンジ

事業実績書

事業名	うみいろ そらいろ 浜松へちまプロジェクト
事業主体名 (共催、後援、協力等)	浜松へちま・ミライ
実施時期	令和7年4月1日（火） ～ 令和8年3月30日（月）
実施場所	浜松市中央区全域
参加人数	団体スタッフ4名 、参加者500名
事業の内容	○へちまの種や苗の配布とグリーンカーテン協力者集め 後述のキックオフ会やイベント出展において、参加者や来場者にへちまの種や苗を配布し、へちまグリーンカーテンづくりに協力してくれるメンバー「つくり隊」を募った。最終的に、50団体、252人が「つくり隊」に参加した。また、4月から5月にかけて、下記の4店舗で希望者がへちまプロジェクトに参加する際のサポートに協力してもらった。 ・中地域 カスミヤ（田町） ・東地域 菜食カフェくりや（小池町） ・西地域 Green Box 桜台店（大山町） ・北地域 フェイバリットブックスL（浜名区中条） ○へちまスポンジ利用者を広める 前述の「つくり隊」募集と同時並行で、へちまスポンジ利用のみ協力してくれるメンバー「つかい隊」を募った。最終的に456人が「つかい隊」に参加した。また、プロジェクト参加者、協力者に対し、計267通のへちま感謝状を作成。へちま収穫祭参加者に手渡し、もしくは郵送により贈呈した。 ○イベントの開催 ・キックオフ会 - 日時：4月6日（日）午前 - 場所：OMソーラー社屋（村櫛町） - 人数：30人 - 内容：参加希望者に対し、プロジェクトの説明、チラシの配布、ポスター掲示協力をお願いを行い、へちまの苗作り体験を実施した。

・へちま収穫祭

日時：10月19日（日）午前

場所：OMソーラー社屋（村櫛町）

人数：30人

内容：へちま栽培に挑戦した参加者同士で、栽培で上手くいったことや苦労したことなどの体験談を共有した。また、へちまの実を長期間水に漬けてスポンジを作る体験を実施したり、OMソーラー隣接地の畑でへちまの収穫を体験したりした。

・満月へちま会

住宅事情等により自宅でへちま栽培、グリーンカーテンづくりができない参加者を対象に、満月の頃に合わせて団体所在地（深萩町）でへちま栽培を体験できる定期イベント。各回10名以上が参加した。

①4月13日 畑作り、種まき

②5月13日 へちまの定植、へちま棚で使用する竹の準備

③6月11日 へちま棚作り、摘心、芽と花の試食

④7月11日 蔓のお手入れ

⑤8月9日 酷暑対策、へちま茶の試飲、実の試食

⑥9月8日 スポンジ作り、へちま水採取、種取り

・中部浄化センターでのグリーンカーテンづくり

瓜内町にある中部浄化センターで、下水処理の仕組みを学びながらへちま栽培、グリーンカーテンづくりに挑戦した。浜松市ボーイスカウト5団体70人が苗植えから収穫まで通して参加。

①6月8日 下水処理の仕組みに関する講義、施設見学、苗植え。

②8月3日 真夏のへちま観察。グリーンカーテンの有無による室内温度の調査。

③10月4日 へちまの収穫。

・三ヶ日図書館でのグリーンカーテンづくり

テラス、入り口など三ヶ日図書館の複数個所でへちま栽培・グリーンカーテンづくりを実施。図書館の企画として、「緑のカーテンの書籍コーナー」「へちまのお話会」「スポンジ作りとへちま水採取体験会」を実施した。

○イベントでの出展

・オーガニックマーケット

日時：4月13日（日）、27日（日）、5月25日（日）

場所：どおあつみ（中央区砂山町）

目的：プロジェクトの宣伝、へちま苗の配布

	・フェアトレードマーケット 日時：4月20日（日） 場所：佐鳴湖公園 目的：プロジェクトの宣伝、へちま苗の配布 ・浜松環境にEフェス（環境政策課主催） 日時：7月31日（木） 場所：浜北協働センター ・上下水道フェア（上下水道局主催） 日時：9月7日（日） 場所：ぶれ葉ウォーク浜北 ・踊る！えんの市（浜松盆部主催） 日時：9月20日（土） 場所：宝林寺（細江町中川） ○広報活動 ・メルマガの配信 4月から10月にかけて、月1回のペースで時期ごとのへちま栽培のポイントをメルマガで配信した。 ・noteの更新 プロジェクト参加者向けに、へちまの価値を伝えるブログ。本年度は「Vol.6 へちまが育む図書館のカタチ」を投稿した。 ・各種メディア等での掲載 ・静岡新聞「へちまで環境負荷減へ」（4月10日） https://news.at-s.com/article/1694441 ・中日新聞三面「この人」（5月16日） ・静岡新聞「静岡人インタビュー『へちまで環境保全に取り組む五明三佳さん』」（5月23日） https://news.at-s.com/article/1723881 ・K-MIX「コスモ アースコンシャス」（5月30日、6月6日）
事業目的の達成度	○へちまのポテンシャルの高さを認知拡大させる 2年目ということで、昨年から引き続き参加してくれた方や新たにメディア掲載されたことで、参加目標（50団体、個人400人）を上回る93団体、708人（つくり隊252人、つかい隊456人）が参加し、へちまのポテンシャルの高さの認知拡大ができたと考えている。

	○へちまを通じて西地域の環境改善意識を高める 村瀬町や深萩町でへちま栽培イベントを開催し、直接へちまに触れてられる機会を設けたことで、西地域内で環境改善意識を高めるきっかけを提供することができた。
地域資源の活用度	○へちま栽培に適した天候・自然環境 かつての西地域でも、各家庭で育てて活用していたへちま。休耕地や庭の空きスペース、使っていなかったプランターなど開いていた場所をへちま栽培の場所として活用した方々も多く見られた。へちま収穫祭で参加者同士が栽培体験談をシェアしたところ、おおむね栽培に成功したという方が多く、浜松のへちま栽培に適した自然環境を生かせたと思われる。 ○浜松でへちまを広めた織田利三郎の歴史 織田利三郎は、かつて浜松市でへちま産業を築き上げた人物である。キックオフ会やパンフレット等で、織田利三郎の功績に触れながら浜松とへちまの関係を参加者に周知することができた。
地域への貢献度	地域住民と一緒に、へちま栽培やスポンジ作り体験を協力して実施したことで、地域住民にへちまのポテンシャルの高さを知るきっかけを提供することができた。 また、メディアで取上げていただく範囲が広くなり、浜松市西地域の魅力を知ってもらえる機会も増えた。首都圏ローカルのテレビ朝日「未来につなぐエール」（地方はBS朝日にて放送）では、短い番組の中で浜松市西地域の紹介もしてもらえた。また、中日新聞「この人」に掲載され、東海北信エリアの8県で本プロジェクトが紹介された。
財政支援の妥当性	参加者目標数は、50団体、個人400人としていたが、今年度は目標を上回る93団体、708人（つくり隊252人、つかい隊456人）が本プロジェクトに参加した。当初の予定よりも多くの団体・人々に、へちまの素晴らしさを周知できたと考えている。 また、弊団体は浜松市から「地方創生SDGs取組表彰」を受賞し、浜松市のSDGsの取り組みへの貢献を認められた。
費用対効果	事業の広報としてチラシやポスター、のぼり旗を店舗や図書館などに掲示・設置してもらったほか、本年度も各種メディアに10回以上取り上げられ、浜松市からSDGs取組表彰をいただいた。本プロジェクトの周知を低費用で効果的に行うことができたと考えている。

今後の方向性	2024 年度に引き続き、下記の一月間に雨が降らなかったことなどの酷暑の影響はありましたが、団体で栽培のポイントなどを丁寧に伝えたこともあり、実がなった喜びの声をいただくことができました。今年度の計画では紙の通信を配布する予定でしたが、「満月へちま会」を開催したため、疑問のある方に直接お会いしながらサポートすることができたため、通信の発行を見送りました。 このような経緯から、接点を持つことが重要だとわかり、今年度トライした「満月へちま会」を引き続き行うこと、そして、キックオフ会やへちまの加工体験会を、この 2 年間で栽培にお取り組みいただいていた団体の所在地などで、複数開催することを計画していきたいと考えています。
備考	

第11号様式（第10条関係）

収支決算書

1 収入の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
			増	△減	
補助金	138,000	138,000			地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	347,187	346,000	1,187		

2 支出の部

単位：円

区分	補助 対象 ※	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
				増	△減	
賃金	○	34,639	35,000		△361	別紙参照
消耗品	○	52,728	52,000	728		別紙参照
印刷 製本費	○	100,713	100,000	713		別紙参照
郵便料	○	36,980	35,000	1,980		別紙参照
委託料	○	20,000	20,000			別紙参照
使用料 賃借料	○	54,860	54,000	860		別紙参照
原材料費	○	47,267	50,000		△2,733	別紙参照
計		347,187	346,000	1,187		
うち補助対象経費		347,187	346,000	1,187		

※補助対象事業に○を記載してください。

番号	区分	金額	日付	購入物・内容
1	資金	8272	4月6日	イベント補助4H、封入作業4H
2		8272	4月6日	イベント補助4H、封入作業4H
3		3102	4月13日	イベント補助3H
4		4136	6月11日	イベント補助4H
5		6721	7月31日	イベント補助6.5H
6		4136	8月9日	イベント補助4H
		54538		
7	消耗品	2200	9月5日	ボトルキャップ
8		946	9月6日	アイラップ
9		6072	4月6日	有機性ポット
10		2384	4月23日	へちま梱材料
11		2386	6月2日	支柱
12		18390	4月29日	支柱
13		218	5月18日	土
14		598	4月18日	土
15		1896	4月4日	土
16		12000	4月15日	へちま
17		5638	4月2日	ラベルシール
		52728		
18	印刷製本費	270	10月3日	コピー代
19		1500	10月3日	コピー代
20		57013	4月4日	のぼり印刷代
21		37740	12月21日	チラシ印刷代
22		4190	12月21日	感謝状印刷代
		100713		
23	郵便費	17600	4月4日	案内送付切手代
24		4675	12月24日	感謝状送付切手代
25		14706	12月17日	感謝状送付切手代
		26981		
26	委託料	10000	12月10日	記事作成
27		10000	2月27日	記事作成
		20000		
28	使用料	1500	4月20日	フェアトレードマーケット出店料
29		36200	8月31日	Adobe使用料 (年86,880÷12月×5か月)
30		17160	9月1日	Adobe使用料 (年102,960÷12月×2か月)
		54960		
32	原材料費	35000	4月18日	へちま苗代
33		12267	4月18日	へちま苗用ポット代
		47267		
		347187		総事業費 (補助対象経費)

助成事業 No. 4

< 令和7年度 > (中央区 西行政センター)

(1)事業名	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～		(2)採択回数	3回目 (補助率25%以内)								
(3)実施団体名	伊佐見地区コミュニティ協議会											
(4)事業の目的	1 小学生及び伊佐見地区自治会役員が地元の再発見をする。 2 浜名湖やアマモについて学び、環境保全意識を高める。 3 路線バスを日常的に使用するきっかけをつくる。											
(5)事業の成果 (内容)	<table border="1"> <tr> <td>イベント名</td><td>浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～</td></tr> <tr> <td>実施時期</td><td>令和7年4月1日(火) ～ 令和7年12月31日(水)</td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td>伊佐見湖上～村櫛浅瀬～新居海浜公園～ウオット、伊佐見協働センター</td></tr> <tr> <td>内容</td><td> 1 浜名湖探検クルーズ(6月26日) ・伊佐見小学校3年生の児童、教員、伊佐見地区自治会連合会役員、伊佐地川と浜名湖を愛する会の会員を対象に、遊覧船による浜名湖探検クルーズを実施。 ・下船後は浜名湖体験学習施設ウオットに移動し、浜名湖の水生生物や環境について職員より説明を受け、浜名湖の知見を深めた。 2 絵画コンテスト・展示(11月8日、9日) ・伊佐見小学校児童には、本事業で学んだ事を絵画にしてもらい、合計75点の作品が集まった。 ・75点の作品のうち、特に優秀な10点を選抜し、伊佐見協働センターまつりで表彰・展示した。 </td></tr> </table>				イベント名	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～	実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和7年12月31日(水)	実施場所	伊佐見湖上～村櫛浅瀬～新居海浜公園～ウオット、伊佐見協働センター	内容	1 浜名湖探検クルーズ(6月26日) ・伊佐見小学校3年生の児童、教員、伊佐見地区自治会連合会役員、伊佐地川と浜名湖を愛する会の会員を対象に、遊覧船による浜名湖探検クルーズを実施。 ・下船後は浜名湖体験学習施設ウオットに移動し、浜名湖の水生生物や環境について職員より説明を受け、浜名湖の知見を深めた。 2 絵画コンテスト・展示(11月8日、9日) ・伊佐見小学校児童には、本事業で学んだ事を絵画にしてもらい、合計75点の作品が集まった。 ・75点の作品のうち、特に優秀な10点を選抜し、伊佐見協働センターまつりで表彰・展示した。
イベント名	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～											
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和7年12月31日(水)											
実施場所	伊佐見湖上～村櫛浅瀬～新居海浜公園～ウオット、伊佐見協働センター											
内容	1 浜名湖探検クルーズ(6月26日) ・伊佐見小学校3年生の児童、教員、伊佐見地区自治会連合会役員、伊佐地川と浜名湖を愛する会の会員を対象に、遊覧船による浜名湖探検クルーズを実施。 ・下船後は浜名湖体験学習施設ウオットに移動し、浜名湖の水生生物や環境について職員より説明を受け、浜名湖の知見を深めた。 2 絵画コンテスト・展示(11月8日、9日) ・伊佐見小学校児童には、本事業で学んだ事を絵画にしてもらい、合計75点の作品が集まった。 ・75点の作品のうち、特に優秀な10点を選抜し、伊佐見協働センターまつりで表彰・展示した。											
(6)総事業費	384,158円	(7)補助金額	96,000円									
(8)評 価	項 目	評 価										
		A	B	C								
	1 事業目的の達成度	高い	普通	低い								
	2 地域資源の活用度	高い	普通	低い								
	3 地域への貢献度	高い	普通	低い								
	4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い								
	5 費用対効果	高い	普通	低い								
(9)意見等	1 事業目的の達成度 ・湖上という普段では見られない視点から地元伊佐見を見つめ直し、郷土愛を深める機会を提供できた。 ・浜名湖の生態系や環境に関する課題を身をもって体感し、環境保全意識を高めるきっかけを提供できた。 ・小学生に路線バスの乗り方について学習してもらい、日常的に路線バスを利用しようとするきっかけ作りになった。 ・小学生の浜名湖クルーズの絵を通し、伊佐見地区や浜名湖の魅力と課題を地域住民に考えてもらうきっかけとなった。 2 地域資源の活用度 ・伊佐見の自然と浜名湖の魅力を五感をもって体感することができた。 ・地域の諸団体の協力を得て円滑に事業を進めることができた。 3 地域への貢献度 ・小学生が地元への関心や環境保全意識を高める機会を提供できた。 ・地域全体で「浜名湖を大切にしよう」という意識を高めるきっかけを提供できた。 4 財政支援の妥当性 ・地域の子どもたちが地元や浜名湖について理解を深めるため、船から地元の様子や浜名湖の湖上環境を観察することができた。 5 費用対効果 ・伊佐見地区の住民に、船から浜名湖を観察するという貴重な体験を提供することができた。											

事業実施中の様子

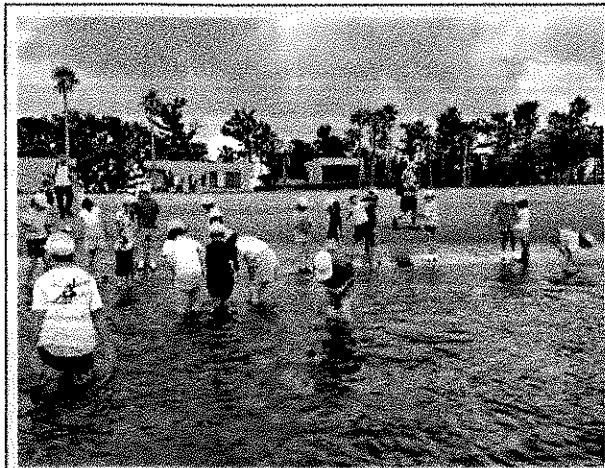
事業名：浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～（3回目）



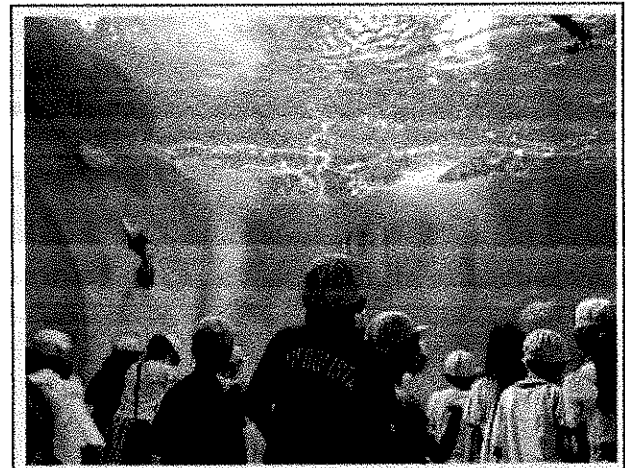
①伊佐見公共マリーナに集合



②浜名湖の環境や漁業について話を聞く



③新居海浜公園で水生生物を観察



④ウォットにて浜名湖の水生生物を観察



⑤絵画コンテスト 表彰式



⑥絵画コンテスト 最優秀作品

事業実績書

事業名	浜名湖クルーズ ～船から見る伊佐見と浜名湖の生き物体験事業～
事業主体名 (共催、後援、協力等)	伊佐見地区コミュニティ協議会
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和7年12月31日(水)
実施場所	伊佐見湖上～村櫛浅瀬～新居海浜公園～ウォット、伊佐見協働センター
参加人数	団体スタッフ 19人、参加者 110人
事業の内容	・浜名湖探検クルーズ 伊佐見小学校3年生の児童、教員、伊佐見地区自治会連合会役員、伊佐地川と浜名湖を愛する会の会員を対象に、遊覧船による浜名湖探検クルーズを実施。下船後は浜名湖体験学習施設ウォットに移動し、浜名湖の生物、環境について職員より説明を受けた。 日 時：令和7年6月26日(木) 9時～15時 参加者：伊佐見小学校児童75人、教員5人、自治会役員8人、浜名湖を愛する会役員5人、その他17人 場 所：①佐浜沖 自分たちが普段生活している伊佐見地区を、湖上という普段からは見ることのできない視点から観察して再認識した。 ②村櫛浅瀬 下船して水の中に入り、アマモの生育場所や水中生物の観察を行う予定だったが、大潮のため水位が高く急遽中止とした。船上で船頭により、浜名湖の問題点やその対策、生態系、漁業に関する説明を受けた。 ③新居弁天海浜公園 下船前に今切口に接近し、伊佐見付近の水面と今切口の水面の違いを観察し、浜名湖が太平洋とつながっていることを実感してもらった。下船後、村櫛浅瀬で水に入れなかった代わりに、新居海浜公園の海水浴場で水の中に入り、水中生物の捕獲・観察を行った。 ④ウォット見学 貸切バスで浜名湖体験学習施設ウォットに移動。浜名湖に生息する生物の観察したり、職員から浜名湖の生物多様性や湖上環境に関する説明を受けたり、水中生物に触れたりする体験を通し、自分たちにとって身近な存在である浜名湖の知見を深めて見つめ直すきっかけを提供した。

	・ 絵画コンテスト、展示 伊佐見小学校児童には、本事業で学んだ事を絵画にしてもらった。合計75点の作品が集まり、その中で特に優秀な10点を選抜し、伊佐見協働センターまつりで表彰・展示した。児童の絵画を通し、地域住民に「浜名湖を大切にしよう」とアピールする機会となった。
事業目的の 達成度	・ 小学生及び自治会役員が地元の再発見をすること 乗船した小学生と自治会役員が、湖上という普段では見られない視点から地元伊佐見を見つめ直したり、浜名湖の生物について現地で学習したりすることができた。地上では気付かなかった伊佐見の良さを再発見し、地域について関心と郷土愛を深める機会を提供できた。 ・ 浜名湖の環境保護の意識を高めること 遊覧船の船頭から浜名湖の湖上環境に関する話を聞くこと、アマモの生育場所を船から観察すること、ウォットで浜名湖の生物を観察することを通し、浜名湖の生態系や環境に関する課題を身をもって体感し、環境保全意識を高めるきっかけを提供できた。 ・ 路線バス利用促進 小学生に路線バスの乗り方について学習してもらい、路線バスに対する抵抗を減らし、日常的に路線バスを利用しようとするきっかけ作りになった。 ・ 地域住民に環境保護を訴えること 小学生が描いた浜名湖クルーズの絵を伊佐見協働センターで展示したことで、多くの地域住民の目に入り、伊佐見地区や浜名湖の魅力と課題について地域住民に考えてもらおうきっかけを提供できた。
地域資源の 活用度	・ 伊佐見の自然と浜名湖の湖上環境 伊佐見地区は浜名湖の湖畔にある自然豊かな地域だ。船に乗って湖上という普段は見ることの視点から地元を観察することができ、伊佐見地区の良さと課題を五感で体感することができた。

	・各種地域団体の協力 伊佐見地区自治会連合会、浜名湖と伊佐地川を愛する会などの各種地域団体が積極的に運営に参加してくれて、地元の理解のもと、大きな事故や混乱もなく円滑に事業を進めることができた。また、村櫛遊漁組合が本事業への理解を示し、本年度も快く遊覧船の賃貸借、操船に協力してくれた。
地域への 貢献度	・小学生の地元への関心増 湖上という普段では見られない視点から伊佐見地区を観察したことで、普段自分たちが暮らしている地域の新しい一面を発見し、地元への興味関心が高まったと感じている。また、身近な浜名湖について生物や湖上環境について学んだ事で、こどもたちの環境保全意識を高められたと思われる。 ・地域の「浜名湖を大切にしよう」という機運の向上 クルーズに参加した小学生が親や祖父母に感想を共有したことで、地域の幅広い世代に浜名湖の良さや課題を共有できた。また、小学生が描いた絵の一部を、伊佐見協働センターまつりで展示し地域住民に見てもらったことで、地域全体で「浜名湖を大切にしよう」という機運を高められたと思われる。
財政支援の 妥当性	地域のこどもたち（小学３年生）を主対象として、身近な浜名湖を非日常的な視点より見るという貴重な機会を提供することができた。こどもたちが郷土愛を深めるきっかけとなり、財政支援は有効であったと思われる。
費用対効果	観光船や貸切バスの借上げ等の費用は高額だが、日頃見ることができない視点から浜名湖・伊佐見地区の素晴らしさを体感するというのは、滅多にできない貴重な体験をこどもたちや地域関係者に提供することができた。本事業を通して浜名湖を大切にしようという機運が地域に広まり、費用に見合う効果が生まれたと感じている。
今後の方向性	今回で３年目となり、次年度以降は助成事業補助金の対象とはならない。伊佐見地区自治会連合会、浜名湖と伊佐地川を愛する会など各種地域団体と一層連携をとり、来年度以降も事業を継続していく予定だ。本事業を、当地区の伝統事業として定着させていきたい。
備考	

第11号様式（第10条関係）

収支決算書

1 収入の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
			増	△減	
補助金	96,000	116,000		△20,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	384,158	467,000		△87,842	

2 支出の部

単位：円

区分	補助 対象 ※	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
				増	△減	
消耗品	○	62,318	70,000		△7,682	・氷代 1,620 ・絵画コンテスト 景品代 60,698
食糧費	○	5,080	0	5,080		・お茶代 5,080
電話・ 郵便代	○	1,100	1,000	100		・切手代 1,100
保険料	○	17,500	30,000		△12,500	・共栄火災 17,500
手数料	○	2,640	2,000	640		・手数料 880×3
使用料・ 賃借料	○	295,520	364,000		△68,480	・バス 132,800 ・遊覧船 160,000 ・駐車料 800 ・ウォット入場料 320×6
使用料・ 賃借料		0	5,000		△5,000	
計		384,158	472,000		△87,842	
うち補助対象経費		384,158	467,000		△82,842	

※補助対象事業に○を記載してください。

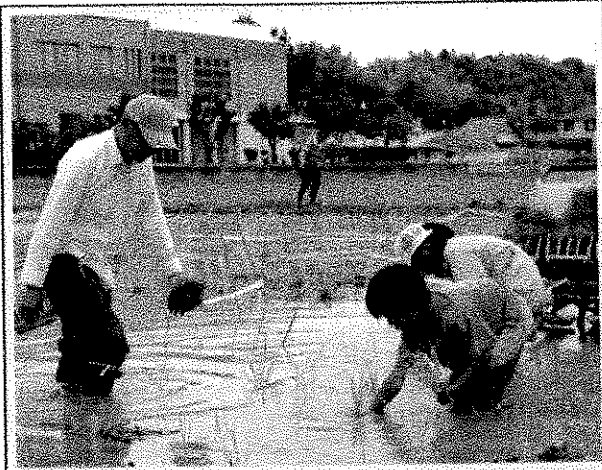
助成事業 No. 5

< 令和7年度 > (中央区 西行政センター)

(1)事業名	伊佐見田んぼアート	(2)採択回数	2回目 (補助率40%以内)									
(3)実施団体名	伊佐見地区コミュニティ協議会											
(4)事業の目的	1 地域住民が地元の歴史や魅力を再認識する。 2 地域住民の交流・親睦を促進する。											
(5)事業の成果 (内容)	<table border="1"> <tr> <td>イベント名</td><td>伊佐見田んぼアート</td></tr> <tr> <td>実施時期</td><td>令和7年4月1日(火) ~ 令和7年12月31日(水)</td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td>伊佐見協働センター隣接地、伊佐見協働センター</td></tr> <tr> <td>内容</td><td> 1 伊佐見田んぼアート(6月から10月) ・伊佐見協働センターに隣接する田んぼ(面積420坪)を借用し、ナウマンゾウをモチーフとした田んぼアートを実施した。 2 餅つき大会(11月8日) ・地域のこどもを中心に約200人が参加。 ・ついた餅はきなこ餅とあんこ餅にして来場者に無償で振る舞った。 ・伊佐見協働センターまつり1日目に開催。 3 もち米の販売、餅投げ(11月9日) ・体育館で田んぼアートに関する展示を行いながら、もち米を販売した。 ・収穫したもち米を投げ餅に加工し、協働センターまつり終盤に体育館で餅投げを行った。 4 れんげ草の種まき(11月11日) ・刈り取り後の田んぼにれんげ草の種をまいた。 ・伊佐見小学校2年生の児童75人、伊佐見幼稚園の児童17人が参加。 </td></tr> </table>				イベント名	伊佐見田んぼアート	実施時期	令和7年4月1日(火) ~ 令和7年12月31日(水)	実施場所	伊佐見協働センター隣接地、伊佐見協働センター	内容	1 伊佐見田んぼアート(6月から10月) ・伊佐見協働センターに隣接する田んぼ(面積420坪)を借用し、ナウマンゾウをモチーフとした田んぼアートを実施した。 2 餅つき大会(11月8日) ・地域のこどもを中心に約200人が参加。 ・ついた餅はきなこ餅とあんこ餅にして来場者に無償で振る舞った。 ・伊佐見協働センターまつり1日目に開催。 3 もち米の販売、餅投げ(11月9日) ・体育館で田んぼアートに関する展示を行いながら、もち米を販売した。 ・収穫したもち米を投げ餅に加工し、協働センターまつり終盤に体育館で餅投げを行った。 4 れんげ草の種まき(11月11日) ・刈り取り後の田んぼにれんげ草の種をまいた。 ・伊佐見小学校2年生の児童75人、伊佐見幼稚園の児童17人が参加。
イベント名	伊佐見田んぼアート											
実施時期	令和7年4月1日(火) ~ 令和7年12月31日(水)											
実施場所	伊佐見協働センター隣接地、伊佐見協働センター											
内容	1 伊佐見田んぼアート(6月から10月) ・伊佐見協働センターに隣接する田んぼ(面積420坪)を借用し、ナウマンゾウをモチーフとした田んぼアートを実施した。 2 餅つき大会(11月8日) ・地域のこどもを中心に約200人が参加。 ・ついた餅はきなこ餅とあんこ餅にして来場者に無償で振る舞った。 ・伊佐見協働センターまつり1日目に開催。 3 もち米の販売、餅投げ(11月9日) ・体育館で田んぼアートに関する展示を行いながら、もち米を販売した。 ・収穫したもち米を投げ餅に加工し、協働センターまつり終盤に体育館で餅投げを行った。 4 れんげ草の種まき(11月11日) ・刈り取り後の田んぼにれんげ草の種をまいた。 ・伊佐見小学校2年生の児童75人、伊佐見幼稚園の児童17人が参加。											
(6)総事業費	703,763円	(7)補助金額	281,000円									
(8)評 価	項 目	評価										
		A	B	C								
	1 事業目的の達成度	高い	普通	低い								
	2 地域資源の活用度	高い	普通	低い								
	3 地域への貢献度	高い	普通	低い								
	4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い								
	5 費用対効果	高い	普通	低い								
(9)意見等												
1 事業目的の達成度 ・田んぼアートを通して、地域住民が地元のナウマンゾウの歴史を再認識できた。 ・田植え、田んぼアート鑑賞、餅つきなど、地域住民が交流する場を提供できた。 2 地域資源の活用度 ・田んぼアートのモチーフとして、ナウマンゾウを活用した。 ・地元在住の稲作農家や建築士など、各種専門家の協力を得て田んぼアートを実施した。 3 地域への貢献度 ・地域住民が田んぼアートという共通の話題を持つことで、地域の一体感を高めるのに寄与した。 ・伊佐見地区の活動やナウマンゾウの歴史を広くアピールすることができた。 4 財政支援の妥当性 ・地域住民を巻き込みながら事業を行い、地域コミュニティ強化に寄与した。 5 費用対効果 ・新聞で取り上げられたことで、地域住民以外も田んぼアートを楽しみ、伊佐見について知るきっかけとなった。												

事業実施中の様子

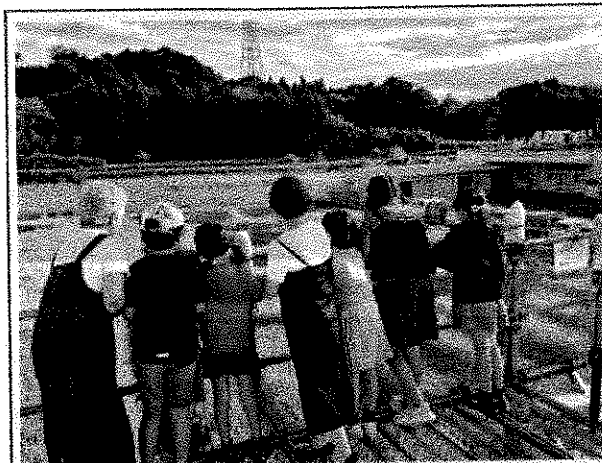
事業名：伊佐見田んぼアート（2回目）



①田植えに挑戦するこどもたち



②ナウマンゾウがピアノを弾く様子を表現



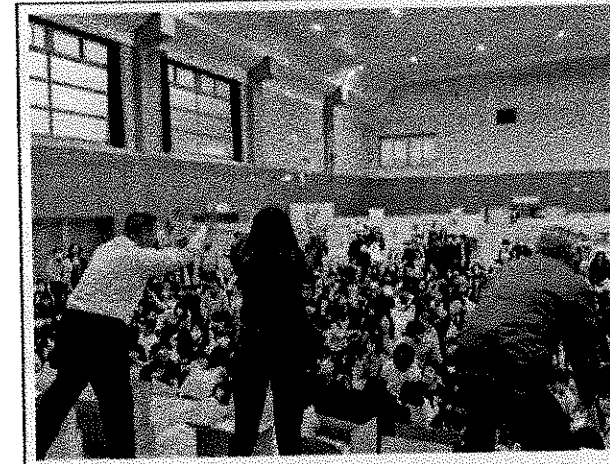
③観賞用やぐらで世代間交流



④地域のこどもたちと餅つきを行う



⑤つくたて餅を美味しく食べるこどもたち



⑥伊佐見協働センターまつりで餅投げを行う

事業実績書

事業名	伊佐見田んぼアート																								
事業主体名 (共催、後援、協力等)	伊佐見地区コミュニティ協議会																								
実施時期	令和7年4月1日（火）～令和7年12月31日（水）																								
実施場所	伊佐見協働センター隣接地、伊佐見協働センター																								
参加人数	団体スタッフ 30人、参加者 460人																								
事業の内容	・伊佐見田んぼアート 伊佐見協働センターに隣接する田んぼ（面積 420 坪）を借用し、ナウマンゾウをモチーフとした田んぼアートを実施した。今年は、種粃を育てて自力で苗を作ってから田植えを実施した。田植えから稲刈りまでの動きは下記の通り。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th><th>日付</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初まき</td><td>5月2日</td><td>初から苗を作る作業。地域のボランティア 10 人が参加。</td></tr> <tr> <td>田んぼの代かき</td><td>5月下旬</td><td>田植え前に土の表面を平らにする作業。地域のボランティア 6 人が参加。</td></tr> <tr> <td>田植え</td><td>6月14日</td><td>回覧で地域住民に参加を呼び掛け、150 人が参加（うち 20 人が小学生）</td></tr> <tr> <td>草刈り</td><td>7月～8月</td><td>団体役員 9 人×6 回実施</td></tr> <tr> <td>やぐら設置</td><td>8月23日</td><td>協働センター駐車場に、田んぼアート鑑賞用のやぐらを設置。</td></tr> <tr> <td>田んぼアート鑑賞</td><td>8月～10月</td><td>のべ 1,500 人以上の地域住民がやぐらに上り、上から田んぼアートを鑑賞した。また、中日新聞（9/18）や静岡新聞（9/21）にも紹介記事が掲載された。</td></tr> <tr> <td>稲刈り</td><td>10月23日</td><td>団体役員 8 人で実施。精米後の計量で 350kg のもち米を収穫した。</td></tr> </tbody> </table> ・餅つき大会 伊佐見協働センターまつり 1 日目に開催。収穫したもち米の一部を使って餅つき大会を実施した。地域のこどもを中心に約 200 人が参加し、ついた餅はきなこ餅とあんこ餅にして地域住民に無償で振る舞い、多くの方に田んぼアートで作ったもち米を楽しんでもらった。 日時：11月8日（土）	内容	日付	説明	初まき	5月2日	初から苗を作る作業。地域のボランティア 10 人が参加。	田んぼの代かき	5月下旬	田植え前に土の表面を平らにする作業。地域のボランティア 6 人が参加。	田植え	6月14日	回覧で地域住民に参加を呼び掛け、150 人が参加（うち 20 人が小学生）	草刈り	7月～8月	団体役員 9 人×6 回実施	やぐら設置	8月23日	協働センター駐車場に、田んぼアート鑑賞用のやぐらを設置。	田んぼアート鑑賞	8月～10月	のべ 1,500 人以上の地域住民がやぐらに上り、上から田んぼアートを鑑賞した。また、中日新聞（9/18）や静岡新聞（9/21）にも紹介記事が掲載された。	稲刈り	10月23日	団体役員 8 人で実施。精米後の計量で 350kg のもち米を収穫した。
内容	日付	説明																							
初まき	5月2日	初から苗を作る作業。地域のボランティア 10 人が参加。																							
田んぼの代かき	5月下旬	田植え前に土の表面を平らにする作業。地域のボランティア 6 人が参加。																							
田植え	6月14日	回覧で地域住民に参加を呼び掛け、150 人が参加（うち 20 人が小学生）																							
草刈り	7月～8月	団体役員 9 人×6 回実施																							
やぐら設置	8月23日	協働センター駐車場に、田んぼアート鑑賞用のやぐらを設置。																							
田んぼアート鑑賞	8月～10月	のべ 1,500 人以上の地域住民がやぐらに上り、上から田んぼアートを鑑賞した。また、中日新聞（9/18）や静岡新聞（9/21）にも紹介記事が掲載された。																							
稲刈り	10月23日	団体役員 8 人で実施。精米後の計量で 350kg のもち米を収穫した。																							

	・もち米の販売、餅投げ 伊佐見協働センターまつり2日目に実施。体育館で田んぼアートに関する展示を行いながら、もち米の販売を行った。1袋1.4kg1000円で販売し、来場者によって59袋売ることができた。 また、収穫したもち米を投げ餅に加工し、協働センターまつり終盤に体育館で餅投げを行った。体育館には幅広い世代の地域住民約400人が集まり、田んぼアートで作った餅を持ち帰った。 日時：11月9日（日） ・れんげ草の種まき オフシーズンの田んぼも楽しんでもらうこと、枯れた後は次年度の土の肥やしとすることを目的として、れんげ草の種を刈り取り後の田んぼに蒔いた。この種蒔きには、伊佐見小学校2年生の児童75人、伊佐見幼稚園の児童17人が参加した。 日時：11月11日（火）
事業目的の 達成度	・地元の歴史や魅力の再認識 伊佐見地区が誇るナウマンゾウの歴史を、田んぼアートを通して地域住民に改めて知ってもらう機会にすることができた。中には、田んぼアートで伊佐見のナウマンゾウに興味を持ち、自由研究の題材にした小学生がいるという話も聞いており、地域住民が田んぼアートを機に地元の歴史や魅力を再発見できたと言える。 ・地域住民の交流の場の創出 田植え、田んぼアート鑑賞、餅つき、餅投げなど、一連の事業の中で地域住民が交流できる場を創出することができた。特に、小学生とシニア世代が一緒に田植えや餅つきを行う光景が見られ、世代間交流の良い機会になったと考えている。
地域資源の 活用度	・佐浜町のナウマンゾウ 田んぼアートのデザインとして、伊佐見地区の誇りであるナウマンゾウをモチーフとした。

	・地元の各種専門家の協力 伊佐見地区は稲作農家が多数あり、本事業に際し米農家の方から多くのアドバイスをいただいた。また、図面の設計には地元の一級建築士に協力をお願いしており、地域の様々な分野の専門家に協力してもらって田んぼアートを浮かび上がらせることに成功した。また、田んぼアートを眺めるための物見やぐらの建設も地元建設業者に協力いただき、伊佐見在住の各種専門家の知恵・知識を集約して本事業を実施することができた。
地域への 貢献度	・地域コミュニティの強化 地域住民が田んぼアートという共通のものを愛でることで、地域の一体感を高める機会になったと考えている。田植えや餅つきなど各種イベントには多くの地域住民が世代に関係なく参加し、地域コミュニティの強化につながる事業になったと思われる。 ・伊佐見地区のアピール 田んぼアートの紹介記事が静岡新聞と中日新聞に掲載されたことで、広い範囲で伊佐見地区の取り組みやナウマンゾウの歴史を周知することができた。田んぼアートを見るために地域外から訪れた人も一定数いて、伊佐見地区を広くアピールできたと考えている。
財政支援の 妥当性	市の財政支援を受けて事業を行なったことで規模を大きくすることができ、地域住民を巻き込みながら事業を実施することができた。地域コミュニティの強化につながる事業を実施できたと思われる。
費用対効果	田んぼアートには多くの地域住民が鑑賞に訪れ、田んぼアートを通じて伊佐見のナウマンゾウの歴史や稲作を地域住民に広く知ってもらう事ができた。また、静岡新聞と中日新聞にも田んぼアートの紹介記事が掲載され、地域住民だけでなく広域にわたって伊佐見地区の活動のPRをすることができた。伊佐見地区の魅力を多くの人に知ってもらうという費用に見合った効果が発生したと考えている。

今後の方向性	令和8年度も地域力向上事業（助成事業）に提案する方針。これまでとは異なる点として、田んぼアートのデザインを地元の小学生に募集し、3点程度のアイデアを融合させた図案を田んぼアートで表現する。採用された小学生は、伊佐見協働センターまつりで表彰し、応募された田んぼアートデザイン案の一部を展示する。
備考	

第11号様式（第10条関係）

収支決算書

1 収入の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
			増	△減	
補助金	281,000	316,000		△35,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	703,763	790,000			

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
				増	△減	
報償費	○	141,267	150,000		△8,733	・技術指導 70,000 ・代かき 20,000 ・稲刈り 15,000 ・稲播り 15,543 ・精米 20,724
消耗品	○	85,649	105,000		△19,351	・肥料 25,000 ・消毒 5,000 ・田植え用品 42,204 ・米袋 12,441 ・トッピング 1,004
食糧費	○	10,175	20,000		△9,825	・お茶 10,175
印刷製本費	○	54,557	80,000		△25,443	・のぼり印刷 37,074 ・チラシ印刷 4,478 ・インク代 13,005
保険料	○	68,500	85,000		△16,500	・共栄火災 3件
手数料	○	106,760	120,000		△13,240	・振込手数料 1,760 ・投げ餅作成 105,000
委託料	○	154,000	150,000	4,000		・やぐら設置 154,000

使用料及び 賃借料	○	38,000	30,000	8,000		・ 借地料 20,000 ・ 農機具賃借 18,000
原材料費	○	44,855	50,000		△5,145	・ 種扱代 29,720 ・ れんげ草種 5,135 ・ 苗代 10,000
計		703,763	790,000		△86,237	
うち補助対象経費		703,763	790,000		△86,237	

※補助対象事業に○を記載してください。

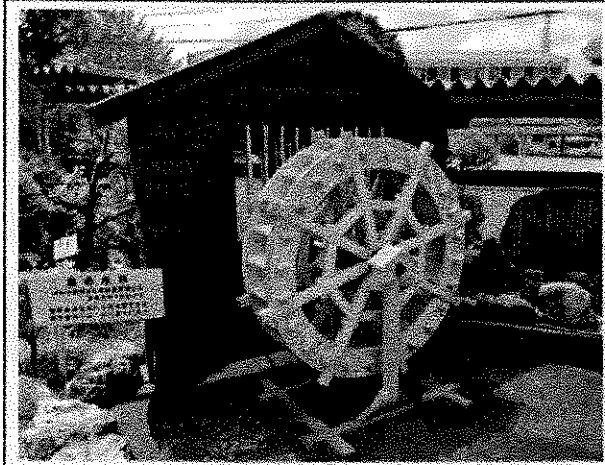
助成事業 No. 6

< 令和7年度 > (中央区 西行政センター)

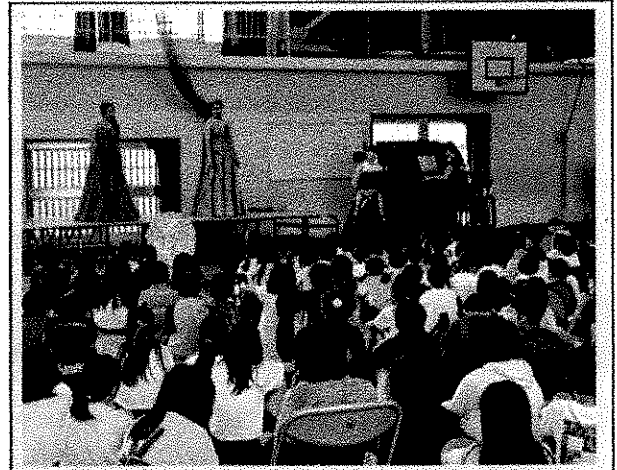
(1)事業名	伊佐見小学校150周年記念事業	(2)採択回数	1回目 (補助率50%以内)																											
(3)実施団体名	浜松市立伊佐見小学校PTA																													
(4)事業の目的	1 地域コミュニティの強化 2 「地域で子どもたちを育てる」という意識の醸成 3 子どもたちの地域を愛する心の育成																													
(5)事業の成果 (内容)	<table border="1"> <tr> <td>イベント名</td><td>伊佐見小学校150周年記念事業</td></tr> <tr> <td>実施時期</td><td>令和7年4月1日(火) ~ 令和7年9月30日(火)</td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td>伊佐見小学校、サーラ音楽ホール</td></tr> <tr> <td>内容</td><td> 1 150周年記念音楽鑑賞会(6月20日) ・浜松市出身メンバーがいる音楽ユニット「オレンジ」を招待し、小学校の体育館でクラシック音楽や人気歌謡曲の演奏を鑑賞。 ・校歌や「森の水車」の演奏に合わせて生徒が合唱した。 2 150周年記念式典(9月27日) ・午前は各学年の音楽発表 ・午後は伊佐見小OBの絵本作家・鈴木のりたけ氏の特別講演。 テーマは「おもしろがると世界が広がる」 3 航空写真撮影(5月26日) ・小学校運動場で、全校生徒・教職員で伊佐見小学校の校章を再現し、上空から撮影。 ・写真はクリアファイルにして配布したほか、希望者に販売した。 4 「森の水車」レプリカ作成・お披露目(6月20日) ・伊佐見小学校のシンボルである水車小屋レプリカを改修。 ・音楽鑑賞会に合わせて、生徒だけでなく保護者や地域住民にも新しい水車を披露した。 </td></tr> </table>			イベント名	伊佐見小学校150周年記念事業	実施時期	令和7年4月1日(火) ~ 令和7年9月30日(火)	実施場所	伊佐見小学校、サーラ音楽ホール	内容	1 150周年記念音楽鑑賞会(6月20日) ・浜松市出身メンバーがいる音楽ユニット「オレンジ」を招待し、小学校の体育館でクラシック音楽や人気歌謡曲の演奏を鑑賞。 ・校歌や「森の水車」の演奏に合わせて生徒が合唱した。 2 150周年記念式典(9月27日) ・午前は各学年の音楽発表 ・午後は伊佐見小OBの絵本作家・鈴木のりたけ氏の特別講演。 テーマは「おもしろがると世界が広がる」 3 航空写真撮影(5月26日) ・小学校運動場で、全校生徒・教職員で伊佐見小学校の校章を再現し、上空から撮影。 ・写真はクリアファイルにして配布したほか、希望者に販売した。 4 「森の水車」レプリカ作成・お披露目(6月20日) ・伊佐見小学校のシンボルである水車小屋レプリカを改修。 ・音楽鑑賞会に合わせて、生徒だけでなく保護者や地域住民にも新しい水車を披露した。																			
イベント名	伊佐見小学校150周年記念事業																													
実施時期	令和7年4月1日(火) ~ 令和7年9月30日(火)																													
実施場所	伊佐見小学校、サーラ音楽ホール																													
内容	1 150周年記念音楽鑑賞会(6月20日) ・浜松市出身メンバーがいる音楽ユニット「オレンジ」を招待し、小学校の体育館でクラシック音楽や人気歌謡曲の演奏を鑑賞。 ・校歌や「森の水車」の演奏に合わせて生徒が合唱した。 2 150周年記念式典(9月27日) ・午前は各学年の音楽発表 ・午後は伊佐見小OBの絵本作家・鈴木のりたけ氏の特別講演。 テーマは「おもしろがると世界が広がる」 3 航空写真撮影(5月26日) ・小学校運動場で、全校生徒・教職員で伊佐見小学校の校章を再現し、上空から撮影。 ・写真はクリアファイルにして配布したほか、希望者に販売した。 4 「森の水車」レプリカ作成・お披露目(6月20日) ・伊佐見小学校のシンボルである水車小屋レプリカを改修。 ・音楽鑑賞会に合わせて、生徒だけでなく保護者や地域住民にも新しい水車を披露した。																													
(6)総事業費	2,541,842円	(7)補助金額	232,000円																											
(8)評 価	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">項 目</th><th colspan="3">評価</th></tr> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th></tr> <tr> <td>1 事業目的の達成度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>2 地域資源の活用度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>3 地域への貢献度</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>4 財政支援の妥当性</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> <tr> <td>5 費用対効果</td><td>高い</td><td>普通</td><td>低い</td></tr> </table>	項 目	評価			A	B	C	1 事業目的の達成度	高い	普通	低い	2 地域資源の活用度	高い	普通	低い	3 地域への貢献度	高い	普通	低い	4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い	5 費用対効果	高い	普通	低い		
項 目	評価																													
	A	B	C																											
1 事業目的の達成度	高い	普通	低い																											
2 地域資源の活用度	高い	普通	低い																											
3 地域への貢献度	高い	普通	低い																											
4 財政支援の妥当性	高い	普通	低い																											
5 費用対効果	高い	普通	低い																											
(9)意見等	1 事業目的の達成度 ・事業を通して、地域の大人と子どもが交流する機会となった。 ・森の水車、郷土の歌、地元出身の有名人など伊佐見地区とゆかりのあるものを通して、子どもたちが地元を見直し愛着を深めるきっかけを提供することができた。 2 地域資源の活用度 ・伊佐見のシンボルである「森の水車」を改修して地域住民に披露する機会を提供できた。 ・伊佐見小学校卒業生である鈴木のりたけ氏の講演会を取り入れ、地域の有名人を生かした事業となった。 ※伊佐見地区と「森の水車」の関係について 「トコトコトン」で知られる童謡「森の水車」は、伊佐見出身の作詞家・清水みのるが作詞した曲である。 3 地域への貢献度 ・地域住民に、鈴木のりたけ氏の講演を聞く機会を提供することができた。 4 財政支援の妥当性 ・小学生と地域住民が世代を越えて交流する場となった。 5 費用対効果 ・音楽鑑賞会や記念式典に、保護者や地域住民が参加することができた。																													

事業実施中の様子

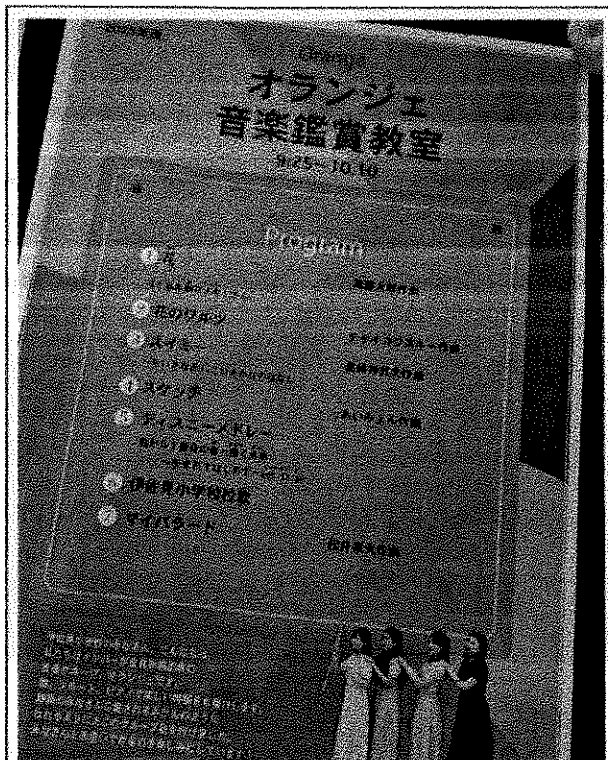
事業名：伊佐見小学校 150 周年記念事業



①正門前の水車小屋を改修



②音楽ユニット「オレンジ」による演奏



③音楽鑑賞会 プログラム



④150周年記念記念式典 開会式

事業実績書

事業名	伊佐見小学校150周年記念事業
事業主体名 (共催、後援、協力等)	浜松市立伊佐見小学校 PTA
実施時期	令和7年4月1日(火) ～ 令和7年9月27日(土)
実施場所	浜松市立伊佐見小学校、浜松市民音楽ホール(サーラ音楽ホール)
参加人数	団体スタッフ 10名 参加者 児童454名、保護者・地域住民 約450名
事業の内容	① 150周年記念音楽鑑賞会 音楽ユニット「オレンジ」を招き、伊佐見小学校児童及び伊佐見地区住民を対象とした音楽鑑賞会を開催した。曲目は、伊佐見小学校校歌や「森の水車」など、伊佐見地区にゆかりのある曲を中心に選び、世代を越えて郷土の音楽を楽しむ機会とした。二部構成とし、第一部は伊佐見小学校の奇数学年の児童、第二部は偶数学年の児童が鑑賞し、保護者・地域住民はどちらの部でも鑑賞できるようにした。第一部と第二部合わせて、保護者と地域住民が約80人来場した。 オレンジ：東京を中心に活躍する4名の音楽ユニットで、メンバー全員が浜松市内の学校の卒業生でうち1名の母は浜松市の教員。西地域では、過去に神久呂小学校で公演を実施した実績がある。 【日時】令和7年6月20日(金) 午前 【会場】伊佐見小学校体育館 ② 150周年記念式典 例年実施している伊佐見小学校音楽発表会だが、今年はスローガンを「かがやけ伊佐見っ子、150年の歴史をメロディにのせて」とし、特別ゲストによる講演会を取り入れる等、例年とは異なる特別な音楽発表会(記念式典)とした。児童・保護者・教職員・地域住民が一丸となって、伊佐見小学校のメモリアルイヤーをお祝いする場を提供した。 午前中は、学年ごとに合唱や合奏などの音楽発表を行った。午後は、伊佐見小学校出身で現在絵本作家として活躍する鈴木のりたけ氏の講演会を行った。式典の最後に、伊佐見地区にゆかりのある曲である「森の水車」を全員で合唱した。全校生徒と職員のほか、保護者が400人、地域住民が50人ほど来場した。 【日時】令和7年9月27日(土) 午前9時～ 【会場】浜松市民音楽ホール(サーラ音楽ホール) 【プログラム】 開会式 児童による発表(学年ごと) 昼食休憩 鈴木のりたけ氏講演会 全校児童「森の水車」合唱、閉会式

	③ 航空写真撮影 伊佐見小学校運動場で航空写真撮影を行った。校章を児童・教職員による人文字で再現してドローンで上空から撮影した。撮影した写真はクリアファイルにして全校児童・学校関係者に配布した。航空写真により、伊佐見地区が豊かな自然に囲まれた地域であることに改めて気づき、児童が郷土のことを知り愛着を深める事に一役買ったのではないかなと思う。 当初は、児童から募集した150周年記念ロゴを人文字で再現する予定で、計174点のアイデアが生徒から集まった。しかし、いずれも人文字で再現するのは困難だったため、校章を人文字で再現することになった。 【日時】令和7年5月26日（月）午前 【場所】伊佐見小学校運動場 ④ 「森の水車」改修 伊佐見地区の代名詞でもある森の水車だが、伊佐見小学校正門内に設置してある水車が老朽化していたため、開校150周年を機に新しく作り直した。水車の披露は、「①音楽鑑賞会」と同日の6月20日朝に行った。 【水車お披露目集会】 体育館に全校児童を集め、じゃんけん列車やダンスなどの全校レクリエーションを行った後、児童のカウントダウンと共に新しい水車の写真がスクリーンに映し出され、児童から歓声が上がった。
事業目的の 達成度	■地域コミュニティの強化 音楽鑑賞会や150周年記念式典等に保護者や地域住民を招き、一緒に鑑賞したり歌ったりと児童と地域住民が触れ合う機会を多く提供した。児童にとって、地域との交流が身近なものになり、地域の秋まつり、伊佐見協働センターまつり、水車小屋コンサートなど地域イベントに参加する児童の数も去年と比べて増加した。地域コミュニティの結束を感じている。 ■地域でこどもたちを育てる意識の醸成 本事業を通して保護者や地域住民が学校教育現場に直接触れる機会を提供し、児童や職員の様子を見ていただける機会が増え、学習や学校行事のサポートに協力してくださる方が増えた。「地域でこどもたちを育てていこう」という意識が高まっていると感じる。 ■こどもたちの地域を愛する心の育成 事業を通し、水車小屋、童謡「森の水車」、伊佐見小出身の有名絵本作家など伊佐見地区の地域資源に直接触れたことで、こどもたちが改めて伊佐見地区の素晴らしさに気づき、地域を愛する心を育てられた。音楽鑑賞会では「一緒に校歌や『森の水車』を歌えて楽しかった」、記念式典では「小さいころから鈴木のりたけさんの絵本を読んでいたの、会ってお話が聞けてよかった」という感想がこどもたちから寄せられた。
地域資源の 活用度	■伊佐見地区出身で活躍されている地域の人材の活用 9月27日に開催した記念式典では、現在絵本作家として活躍している、鈴木のりたけ氏による講演会を行った。伊佐見小出身でこどもたちからも絶大な支持を集めている作家で、講演当日は鈴木氏の絵本を持参したこどもも多数見られた。演題は「おもしろがるとせかいがひろがる」。全国レベルで活躍するOBとの交流を通し、こどもたちは「何気ない日常でも視点を変えて捉えることで面白いものが見えてくる事」「不足しているものは自分の頭で補えばよい事」「面白いものは自分で開拓する事」の大切さを学べた。また、キャリア教育としてもこどもたちの良い刺激になった。

	■伊佐見地区のシンボル「森の水車」の披露 伊佐見地区のシンボルである水車をこどもたちにも伝えていきたいという思いから、伊佐見小学校の正門内には当時のPTAが中心となって作製された水車が設置されていた。老朽化が進んでいたため改修工事を行った。水車は、地元住民に地域の歴史を広めるツールであり、地域住民の思いを後につないでいくものであると考えている。水車披露の際は、こどもたちのカウントダウンのもと、大歓声が上がった。また、披露当日は新しい水車を見に来ようと学校に足を運んだ地域住民や卒業生もいた。水車の披露を通し、地域住民の一体感を醸成する機会を提供できた。
地域への 貢献度	■児童と地域住民の交流の場の設定 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地域主催のイベントの多くが開催取りやめになっていたが、地域住民や児童を対象としたイベントを開催したことで、学校が地域内での交流の場として機能した。こども同士及びこどもと大人が関わる場となった。
財政支援の 妥当性	オレンジによる音楽鑑賞会、鈴木のりたけ氏による講演会など、地域住民が参加できるイベントの開催を通し、伊佐見地区にゆかりのある曲や人材に触れながら、豊かな心、地域を愛する心の育成につながったと考えている。 伊佐見小学校開校150周年という記念すべき年であるため、できるだけ収容人数が多く、最新設備の整った浜松市民音楽ホールで記念式典を実施したいと考えた。当日は、保護者だけでなく、地域住民が参加したり、卒業生がボランティアとして式典の運営に協力してくれたり、地域の皆さんの力を借りながら事業を進めることができた。会場の使用料や警備費、会場までの貸切バス代など例年よりも経費はかかったが、いつもの音楽発表会とは差別化された記憶に残り続ける質の高い事業を展開できたと考えている。
費用対効果	伊佐見小学校150周年記念事業を児童だけでなく、地域（地域住民）をまきこんで実施したことで、地域住民の「地域でこどもたちを見守り、育てていこう」という意識が高まった。児童には、地域を知って郷土愛を深める機会を提供することができた。
今後の方向性	開校150周年記念として実施した事業のため、来年度は事業を実施する予定はないが、今後、創立160周年記念事業を実施できるよう、準備を少しずつ進めていきたい。
備考	

第11号様式（第10条関係）

収支決算書

1 収入の部

単位：円

区分	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
			増	△減	
補助金	232,000	232,000			地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	2,541,842	2,765,000		△223,158	

2 支出の部

単位：円

区分	補助 対象 ※	決算額	予算額	比較		経費内訳 (単価・数量)
				増	△減	
報償費	○	179,822	190,000		△10,178	・ オランジェ謝礼 66,822 ・ オランジェ記念品 3,000 ・ 鈴木氏謝礼 110,000
旅費	○	53,660	65,000		△11,340	・ オランジェ交通費 35,000 ・ 鈴木氏交通費 18,660
需用費		880	10,000		△9,120	・ 記念集会風船 880
委託料	○	94,600	74,000	20,600		・ サーラ駐車場警備 92,400 ・ 航空写真撮影 2,200
委託料		1,101,760	1,100,000	1,760		・ 水車 1,101,760
使用料 賃借料	○	160,720	126,000	34,720		・ サーラ使用料 65,570 ・ サーラ設備使用料 95,150
使用料 賃借料		950,400	1,200,000		△249,600	・ 貸切バス 950,400 (サーラ⇄伊佐見小)
計		2,541,842	2,765,000		△223,158	
うち補助対 象経費		488,802	455,000	33,802		

※補助対象事業に○を記載してください。

第9号様式

区 協 議 会

区 分	☐ 諮問事項 ☒ 協議事項 ☐ 報告事項				
件 名	令和8年度 地域力向上事業（市民提案による住みよい地域づくり助成事業）の提案について（中央区・西地域）				
事業の概要 （背景、経緯、 現状、課題等）	地域力向上事業は、市民協働の手法により住みよい地域社会を実現するため、市が実施又は支援する区の特性を活かした事業や課題を解決する事業です。 ○市民提案による住みよい地域づくり助成事業 （以下「助成事業」という） 団体の提案に基づき、市が公益上の必要を認め、団体が主体的に取り組む事業に対し市から補助金を交付することで、効果が期待できる事業 <浜松市地域力向上事業実施要綱（抜粋）> 第7条 助成事業は、市長が別に定める審査会において、審議するものとする。 第8条 市長は、<u>助成事業の採択に当たっては</u>、浜松市区及び区協議会の設置等に関する条例第4条に規定する区協議会（中央区及び浜名区にあっては、同条例第5条の2に規定する<u>地域分科会</u>）に意見を求め、その意見を踏まえて実施予定助成事業を決定し、提案団体には選考結果通知書により通知するものとする。				
対象の区協議会	浜松市中央区協議会西地域分科会				
内 容	○提案事業1件 提案のあった助成事業について、審査会にて審議を行いましたので、審議結果についてご意見をお伺いいたします。 審査会結果及び提案事業の詳細は別紙のとおりです。				
備 考 （答申・協議結果を得た い時期、今後の予定など）	①中央区地域力向上事業審査会（西行政センター）を実施（4月30日） ②西地域分科会にて意見聴取（5月18日） ③事業の採択・不採択を決定し提案団体に通知を送付				
担当課	西行政 センター	担当者	大平 哲也	電話	597-1112

浜松市地域力向上事業実施要綱（抜粋）

別表 1（第 7 条関係）

審査指標		点 数				
評価のポイント		低い	やや低い	普通	やや高い	高い
1	地域資源の活用度					
	区内の地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を活かした事業か。	1	2	3	4	5
2	地域課題の明確性					
	解決すべき地域課題の原因・背景を把握し、目指すべき状態を理解しているか。	1	2	3	4	5
3	事業の妥当性					
	事業が地域の課題解決にどう結び付くか。	1	2	3	4	5
4	公益性					
	住みよい地域づくりに寄与できる事業か。	1	2	3	4	5
5	財政支援の妥当性					
	行政が補助すべき事業か。 行政施策に同じような事業がないか。	1	2	3	4	5

※「公益性」の項目については、審査会での評価の平均が 3 点以上であることを採択の目安とする。

※審査会でのすべての審査指標の評価の合計が平均 15 点以上であることを採択の目安とする。

※その他、基準の運用についての詳細は各区において定めることができることとする。

令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

No.	(1) 提案事業名			(2) 提案回数	
1	UNIZONE2026：eモータースポーツを切り口に 普段使っている自動車についてさらに深く学ぼう			2回目	
				(補助率40%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	株式会社遠州ハママツモータース		令和8年5月19日（火）～ 令和8年7月31日（金）		
	(5) 事業目的				
	①eスポーツを活用して地域課題解決や地域活性化につなげる。 ②eスポーツを通じた住民交流を促進し、より良い地域社会形成を目指す。 ③地域住民の交通安全意識を高め、交通事故のない社会を作るきっかけにする。				
	(6) 事業内容				
	令和8年6月27日(土)28日(日)にイオン志都呂にて下記のイベントを実施。 ①eモータースポーツプロリーグ2026の開催 ②eスポーツ体験イベントブースの設置 ③eモータースポーツ器具を使った運転トレーニングと交通安全啓発				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	イオンモール浜松志都呂 1F セントラルコート		団体スタッフ20人 参加者200人		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	2,355,000円	2,355,000円	942,000円	942,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.3	3.2	3.0	3.0	3.0
合計	結果		審査の目安		
15.5	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
なし					
(15) 【審査会】主な意見					
・ 地元の高校生を巻き込んだ事業で、eスポーツに多文化共生や交通安全の視点を取り入れていて面白い企画である。 ・ 新しいコンテンツを使用して地域課題の解決を図る切り口について、斬新な点を評価する。 ・ eスポーツには、多様な主体が参加できるインクルーシブな側面があるので、高校生や外国人学生が主体的に参画できる仕組みを取り入れることを期待する。					

事業名	UNIZONE2026：eモータースポーツを切り口に 普段使っている自動車についてさらに深く学ぼう
実施時期	2026年5月19日（火） ～ 2026年7月31日（金）
実施場所	イオンモール浜松志都呂 1F セントラルコート
概算事業費	2,355,000 円
参加予定人数	団体スタッフ 20 名、参加者 200 名
事業の内容 （事業の対象や手法などを具体的に記入）	1つ目として、JAF（日本自動車連盟）が唯一公認するeモータースポーツフロリーグ 2026 シーズンの RD.3 を開催し、eモータースポーツ競技を切り口に、レジェンドレーサーによる解説で自動車の世界を更に深く知ることが出来ます。 2つ目として、eモータースポーツを切り口に、インクルーシブ社会の実現へ、世代間や障がい者、外国人などとの人的交流を目的としたその他eスポーツ体験イベントの開設。 3つ目として、当社が開発した RC ラジコンカーをeモータースポーツ用のハンドルペダルで操作ができるシステムを活用した運転トレーニングや交通安全講習の開催。誰でも気軽に参加可能なイベントとして実施します。
事業の目的	「浜松から金メダリストを」を合言葉に長期計画を策定し、人材の発掘・育成、新しいカテゴリーであるeスポーツの振興を目指す一方で、eスポーツを活用して、地域におけるインクルーシブ社会の実現や新たな産業を産み出し、地域課題解決や地域活性化を図るべく活動をしております。 プロレースチームの迫力を肌で感じてもらい、プロへのあこがれを次世代の子どもたちに抱いてもらうと同時に、eスポーツであればいまからでも戦代表や日本代表になれるという夢をもち、目指したいと思う人材を集め、そしてそれを支える地域ネットワークを構築する第1歩とします。 また性別・年齢・国籍・障がいの有無を問わないeスポーツの特性を活かし、体験機会の提供にて交流機会を促進し、より良い地域社会形成を目指します。 また、単なるレースゲームのみではなく、開発したシステムにより交通安全セミナーの実施やヒヤリハットなどを体感できる環境を提供することにより、日々の交通安全への意識づけをします。また、地域の企業や学校・団体などが参加するエキシビションレースを開催することにより、異業種交流や社内コミュニケーション形成の一助となることを目指します。

地域資源 の活用	浜松市西地域において、ヒト・モノの集まるイオンモール浜松志都呂を活用し、新たなスポーツ、そして地元のプロチームというコトを実施することによりヒト・モノ・コトの集まる新たな交流拠点に出来るのではと想っております。 浜松の基幹産業である自動車関連事業、スズキのお膝元であるエリアにてモータースポーツイベントを実施する事は、エリアとしてモビリティとの親和性は高く、また、チームアンバサダーでレジェンドドライバーの脇阪寿一氏はプロドライバーになる前は旧鈴木自動車での勤務歴があり、地域の方々にとってもより親和性は高いです。 そして、浜松興誠高、浜松学芸高校、オイスカ浜松国際高校や静岡大学等にスタッフとして参画いただき、またムンド・デ・アレグリア校とも連携し、交流を図ります。また、浜松静岡信用金庫様、静岡銀行様、㈱大洋サービス様、イオンモール浜松志都呂店に店舗を持つ㈱ブティックビギ様などの地域の企業に参加してもらうことにより、地域の魅力を発信としていきたいと思ひます。
地域課題	浜松市西エリア、舞阪・雄略地域においては、浜松市西部工業地域、また湖西市の自動車関連工場で働く外国人居住者が多く見られます。国籍・文化的背景、生活習慣の違いにおいてお互いの認知不足による住民同士のトラブルも少なくありません。 具体的には、ゴミ出しや騒音、自治会費の不払いや清掃活動など共同作業の参加率の低さなどが課題としてあります。 また浜松市は政令指定都市人口 10 万人当たりの人身交通事故件数ワースト1が続いており、交通安全意識の希薄さが長年の課題となっています。 西地域においても同様の課題が見られます。記憶に新しい令和7年3月に館山寺町で発生した、高齢ドライバーが軽トラで小学生4人をはね、女児1名が亡くなるという全国的にも話題となった痛ましい事故がありました。 村櫛町の海水浴場、ガーデンパーク周辺、弁天島の清瀬エリアまでの館山寺弁天島線ではスピードを出す車両は多く、ガーデンパーク前は浜松市における危険予測箇所の中規模幹線道路ワースト20に挙がっています。 また、イオンモールのすぐの南九郎橋交差点は過去に交通事故多発地域として浜松市より指定されたこともあります。 既存の交通安全の取り組みには形式的なものも多く、全体に浸透するのに時間がかかっているかと感じます。また、地域内でのコミュニティが薄れ、世代間交流も希薄化し、産業の活性化や元気なまちづくりも課題となっており、その原因の一つに交流不足によるものと考えています。
事業の妥当性	浜松市内において外国人の割合の一番多いブラジルではモータースポーツは非常に盛んです。e モータースポーツも同様です。実際に、日本で生まれ育った日系ブラジル人であるイゴール・フラガさんはe モータースポーツの世界チャンピオンにもなり、またリアルモータースポーツでも国内で優勝しております。 今回、雄略エリアの隣、人野地区にあるイオンモール浜松志都呂において、e モータースポーツのリーグ戦を実施する事で、多くの外国人居住者が観戦に来訪する事が期待されます。 観戦のみならず体験型コンテンツも提供する事で彼ら彼女らのウェルビーイング向上を図ることが出来ます。また地域にある外国人学校、ムンド・デ・アレグリア校との連携をはかり、会場でのe スポーツ体験会を通じての交流促進の機会となります。 異業種間交流や地域における世代間交流を促進し、スタッフとし

	て参画する地元高・大学生、参加する地域の企業、エキシビジョンレースに参加する団体、イベントに集まった個人など、様々な交流を生み出すことが可能です。 これはこのエリア、イオンモール浜松志都呂会場でeスポーツ、eモータースポーツ事業を実施するからこそ実現可能でバリューがあることであり、また浜松市スポーツ推進計画にある「する」「みる」「ささえる」が実現できる事業となります。 また一方で交通安全に対して、eスポーツという体験型のコンテンツを活用することで、気軽に交通教育を受けられ、交通事故件数削減への効果が期待できます。
公益性	浜松市において、地元のプロスポーツチームとして公認を受けている遠州ハマツモータースが上記のように、eモータースポーツ、eスポーツの観戦・体験を通じて、交流が促進され、またウェルビーイング向上になります。 地域ネットワークの強化や交通安全意識の向上により、安心して生活できる地域づくりが促進され、地域交流が活発となり、地域全体が元気になるかと思えます。 また、「プロスポーツ」が身近なコンテンツとして定着することにより、交流人口やプロを目指す人材の受け皿となりうる街として個性的な特徴をアピールする事が可能です。
財政支援の妥当性	行政施策としてのeスポーツでは、「体験」までは出来るものの、トッププロのレース観戦体験や、それを通じての夢や憧れ、目標実現には至りません。また単発の開催となり、継続持続性においても難しいものがあるかと思えます。 今回、2026年5月にも開催する同事業との運動性が期待でき、5月開催実績からの広報・口コミによる地域住民とのタッチポイントの増加においても期待が出来ます。 9月に開催されるアジア競技大会愛知・名古屋において、篠原地区のトピオでもアーティスティックスイミングが実施予定です。同大会にはeスポーツも採用され、盛り上がりを見せるeスポーツですが、いまだ「たかがゲーム」という見られ方も多いです。公共のご支援をいただくことにより、有益なコンテンツとして認知が広がり、地域のキラコンテンツへの成長を目指すことができるかと思っております。 今回、同事業を実施することで、異業種間・地域の世代間交流ができ、コミュニケーション形成の一助となるだけでなく、地域が活性化し、新たな産業形成にもつながり、また、この地域からeスポーツのプロを目指す人材発掘にも寄与できるかと思っております。

第2号様式(第6条関係)

収支予算書

単位: 円

1 収入の部

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	942,000 円	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	2,355,000 円	

単位: 円

2 支出の部

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	655,000 円	MC 20,000 円×1名×2日 選手 50,000 円×1名×1日/30,000 円×2名×1日/10,000 円×1名×1日 アンバサダー 355,000 円×1名 技術協力 60,000 円×1名 運営協力 20,000 円×2日×2名
旅費	○	380,000 円	出演者交通費 往復 35000 円×2名 出演者宿泊料 1泊 10,000 円×2名×2日 テクニカルスタッフ宿泊料 10,000 円×3名×2泊分 運営スタッフ宿泊費 10,000 円×3名×3泊分 運搬車両費 120,000 円
需用費	印刷製本費	○	400,000 円
			ポスター/チラシ 2 種 400,000 円 (デザイン含)
役務費	広告料	○	20,000 円
	装飾費	○	150,000 円
			エリアポスティング 20,000 円 会場装飾バナー関係 150,000 円
委託料		○	750,000 円
			ネットワーク工事 200,000 円 機材レンタル費 550,000 円
計		2,355,000 円	
うち補助対象経費		2,355,000 円	

※補助対象事業に○を記載してください。

© ふるさとチョイスGCF

ガバメントクラウドファンディングに挑戦中

#

キーワード

観光・自然・環境・まちづくり・コミュニティ



静岡県浜松市

夜空を彩る地域の誇り。 「佐鳴湖花火大会」を未来へ繋ぎたい！

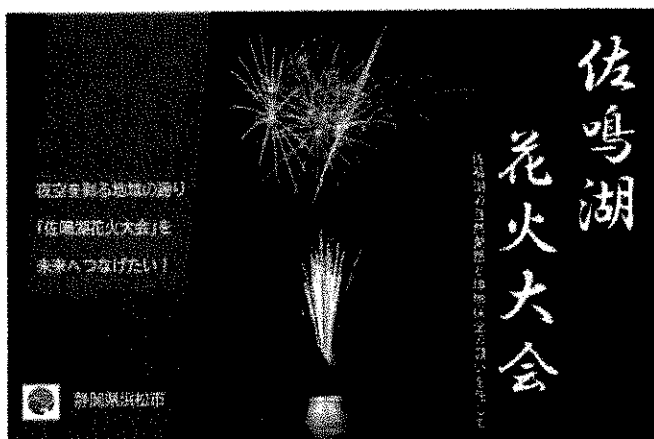
目標金額

4,700,000円

受付期間

2026年7月31日まで

ご寄付の使い道



佐鳴湖花火大会は地域に愛される夏の風物詩ですが、昨今の物価高騰により安定した継続開催が難しい状況です。皆様からお寄せいただいたご寄付は、安全対策経費、大会周知に関する印刷製本費など、地域住民が安心して花火大会を楽しめる環境づくりに使われます。

この伝統ある花火大会を次世代へ引き継ぎ、地域の絆を守るため、どうか温かいご支援をお願いいたします。一人ひとりのご協力が、佐鳴湖の夜空を彩り続けます！

地域の誇りを守るため、皆様のご協力をお願いします。

担当者メッセージ

佐鳴湖花火大会は、地域の皆様にとってかけがえのない夏の風物詩です。子どもたちの笑顔、ご家族の思い出、地域の絆を守るため、皆様のあたたかいご支援を心よりお願い申し上げます。花火に込められた想いを、次世代へぜひ一緒に、この大切な伝統を未来へつないでまいりましょう。

この寄付は「ふるさと納税対象」です。
地域の課題解決に役立ててみませんか？



浜松市役所中央区行政センター
入野協働センター 主任 中村

お申込みはインターネットが便利！ ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディングへ

URL

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/5341>



寄付までの流れ

URL <https://www.furusato-tax.jp/gcf/5341>

Step.01 GCF のプロジェクトページにアクセス

まずは上記 URL か、右の2次元コードからアクセスして
GCF のプロジェクトページをご覧ください。



Step.02 お申し込み手続きを行う

ふるさと納税で応援 ボタンを選択し、寄付金額入力ページへ移動。

寄付金額を入力後、ページに従い入力を進める。

Step.03 決済をして寄付完了!!

後日、受領証明書（お礼の品をご希望された方はお礼の品）を
お受取りください。寄付金控除手続きも、お忘れなく!!

プロジェクトに関するお問い合わせ

浜松市役所中央区西行政センター
入野協働センター

メール: irino-k@city.hamamatsu.shizuoka.jp

電話: 053 - 449 - 2396

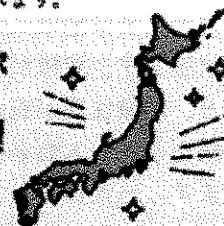
ふるさと納税のメリットは?

ふるさと納税とは、ご自身の故郷や、応援したい自治体に

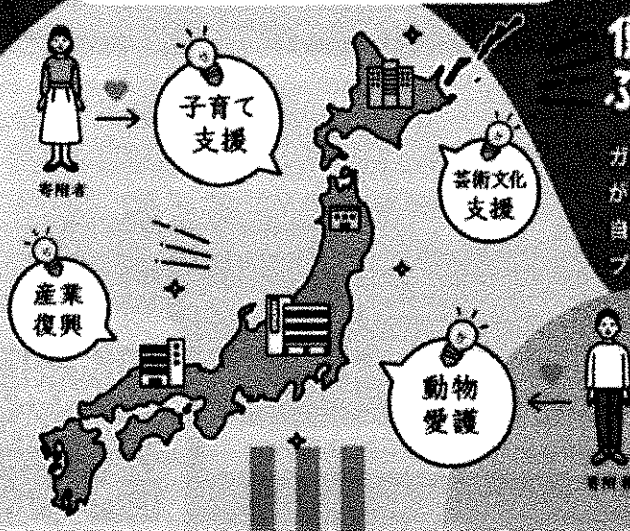
寄付ができる制度のことです。自分の選んだ自治体に寄付を行うと、控除上限額内の
2,000 円を越える部分について、所得税や住民税の還付・控除が受けられます。



あなたの思いを込めた寄付が
ふるさとをそして日本を動かす!



ふるさとチョイスGCF



使い道に共感した方から寄付を募る ふるさと納税型クラウドファンディング

ガバメントクラウドファンディング®(GCF®)は、ふるさとチョイス
がふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。
自治体が抱える問題解決のため、寄付金の使い道をより具体的に
プロジェクト化し、共感を得た方から寄付を募る仕組みです。

寄付に関するお問い合わせ

浜松市役所中央区西行政センター
入野協働センター

メール: irino-k@city.hamamatsu.shizuoka.jp

電話: 053 - 449 - 2396